

0001

安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

リスクアセスメントの進め方として、最も適切なものはどれか。

ア．危険性・有害性を特定し、リスクを見積もり、優先度を定めて低減措置を検討・実施する。
イ．事故が起きた後だけ危険箇所を記録する。
ウ．危険箇所を見つけても優先度を付けず同じ扱いにする。
エ．保護具を配布した時点で危険源の確認を省略する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 厚生労働省指針では、危険性・有害性の特定、リスク見積り、低減措置の優先度・内容の検討、実施という流れが基本である。
イ：× リスクアセスメントは事故前の予防的管理である。
ウ：× リスクの大きさに応じて優先順位を付ける。
エ：× まず危険源を特定し、より上位の低減策を検討する。

総合解説：リスクアセスメントは、危険源を見つけて終わりではなく、低減措置の実施と見直しまでつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0002

安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

「危険性」と「リスク」の関係として、最も適切なものはどれか。

ア．危険性とリスクは常に同じ意味である。
イ．危険性は災害を引き起こす潜在要因で、リスクはその結果の重篤度と発生可能性を踏まえて評価する。
ウ．リスクは作業人数だけで決まる。
エ．危険性が存在すれば対策後もリスクは必ず最大である。

答え・解説

正答：イ

ア：× 危険源の存在と、その危険の大きさの評価は区別する。
イ：○ 同じ危険源でも、作業頻度や接近状況、災害の重大性によってリスクの大きさは変わる。
ウ：× 重篤度や発生可能性などを考慮する。
エ：× 対策によりリスクを低減できる。

総合解説：リスク評価では、危険源の存在だけでなく、どの程度の災害がどの程度起こり得るかを考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0003

安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

作業開始前の危険予知活動の目的として、最も適切なものはどれか。

ア．工期を短縮するために安全確認を省略する。
イ．事故報告書を完成後に作ることだけが目的である。
ウ．その日の作業条件に潜む危険を作業者間で共有し、具体的な安全行動を確認する。
エ．管理者だけが危険を把握し、作業者には知らせない。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 安全確認の省略は目的と逆である。
イ：× 作業前の予防活動である。
ウ：○ KY活動は当日の作業・周辺条件に即して危険ポイントと対策を共有する活動である。
エ：× 作業者間で共有して行動に落とすことが重要である。

総合解説：KY活動は、抽象的な『注意する』で終わらず、誰が何をどう確認するかまで具体化すると有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0004

安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

リスクアセスメントを改めて行うべき場面として、最も適切なものはどれか。

ア．作業条件が大きく変わっても最初の評価を使い続ける。
イ．工事が順調なら危険源が変わっても評価しない。
ウ．事故が起きるまで一度も評価しない。
エ．新しい設備や材料を採用したり、作業方法・手順を変更したりするとき。

答え・解説

正答：エ

ア：× 変化に応じて再評価が必要である。
イ：× 危険性の変化を確認する必要がある。
ウ：× 予防的に実施する。
エ：○ 労働安全衛生規則では、設備・原材料・作業方法等の新規採用や変更など、危険性・有害性に変化が生じるときが実施時期とされている。

総合解説：リスクアセスメントは固定資料ではなく、施工段階や工法変更に応じて更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0005

安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

高所からの墜落リスクへの対策を検討する場合、より優先すべき考え方はどれか。

ア．可能なら高所作業そのものを減らす工法や地上組立を検討し、そのうえで設備対策・保護具を組み合わせる。

イ．最初から保護具だけに頼り、作業方法は見直さない。

ウ．作業者へ注意喚起だけで設備対策を行わない。

エ．危険な作業ほど作業時間を延ばして慣れさせる。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 危険源をなくす・近づかない等の本質的対策を優先し、設備対策、管理的対策、保護具へと重層化するのが基本である。

イ：× 保護具は重要だが、より上位の低減策を先に検討する。

ウ：× 注意だけではヒューマンエラーを十分防げない。

エ：× 曝露時間が増えリスクが高まる可能性がある。

総合解説：安全対策は一つに依存せず、本質的対策・工学的対策・管理的対策・保護具を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0006

安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

狭い現場でバックホウと作業員が同じ通路を頻繁に行き来する。リスク低減策として最も適切なものはどれか。

ア．運転者が熟練していれば歩行者通路は不要とする。

イ．人と重機の動線を分離し、立入範囲・誘導方法を明確にする。

ウ．作業員に重機のすぐ横を通らせる。

エ．警笛を鳴らせば同一動線のままで十分とする。

答え・解説

正答：イ

ア：× 死角は熟練だけでは解消しない。

イ：○ 重機の死角と人の接近が重なるため、注意力だけでなく動線分離や立入管理が有効である。

ウ：× 接触・巻き込まれリスクが高い。

エ：× 警報に加えて物理的・運用的分離が重要である。

総合解説：重機災害は人と機械の接点で生じやすい。リスク低減では接点そのものを減らすことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0007

安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

次のうち、一般に最優先で対策を検討すべきものはどれか。

ア．発生可能性も影響も小さい軽微な危険だけを優先する。
イ．対策が簡単なものだけを危険度に関係なく優先する。
ウ．発生可能性が高く、発生時に死亡・重篤災害へつながる危険。
エ．過去に事故がない危険は必ず優先度ゼロとする。

答え・解説

正答：ウ

ア：× より大きなリスクを先に低減するのが合理的である。
イ：× リスクの大きさを踏まえる必要がある。
ウ：○ リスクは発生可能性と重篤度を組み合わせて評価し、高リスクから優先して低減する。
エ：× 未発生でも重大災害の可能性があれば評価が必要である。

総合解説：優先順位は『対策しやすさ』だけでなく、災害の重篤度と発生可能性を基準に決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0008

安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

同じ場所で重機との接触寸前のヒヤリハットが繰り返されている。最も適切な対応はどれか。

ア．事故ではないため記録も対策も不要とする。
イ．報告者を責めて報告件数を減らす。
ウ．同じ作業方法を続け、慣れで解決すると考える。
エ．発生条件を分析し、動線・合図・立入範囲・配置などの対策を見直す。

答え・解説

正答：エ

ア：× 重大事故の予兆として活用できる。
イ：× 報告されなくなり危険情報を失う。
ウ：× 繰り返し発生している原因への対策が必要である。
エ：○ ヒヤリハットの反復は事故の前兆となり得るため、単なる注意喚起で終えず原因を除く。

総合解説：ヒヤリハットは実災害より早く危険な作業条件を把握できる有用な情報である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0009

安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

リスク低減措置を実施した後の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．対策後に残るリスクを再評価し、必要なら追加対策や作業者への周知を行う。
イ．対策を一つ実施したら必ずリスクゼロとみなす。
ウ．対策後は作業条件が変わっても見直さない。
エ．残留リスクは管理者だけが知り、作業者には伝えない。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 対策を行ってもリスクがゼロにならない場合があるため、残留リスクの確認が必要である。
イ：× 残留リスクが残ることがある。
ウ：× 条件変化時には再評価が必要である。
エ：× 作業上必要な情報は共有する。

総合解説：低減措置の有効性確認と残留リスク管理まで行うことで、リスクアセスメントが実効的になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0010

安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

クレーン作業と高所作業が上下で同時に行われる計画である。最も適切なリスク評価はどれか。

ア．各作業が単独で安全なら同時作業も必ず安全とする。
イ．吊荷落下、飛来物、作業員の上下干渉を危険源として抽出し、同時作業の回避や作業区分を検討する。
ウ．上下作業者が互いを見えなければ危険はない。
エ．工程短縮効果だけで同時作業を決める。

答え・解説

正答：イ

ア：× 作業間の相互干渉を評価する必要がある。
イ：○ 単独作業では低いリスクでも、同時作業により新たな危険が生じる。
ウ：× むしろ落下・干渉リスクを把握しにくい。
エ：× 安全性を優先して施工区分を検討する。

総合解説：リスクアセスメントでは、作業単体だけでなく同時作業・周辺作業との相互作用も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0011

安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：応用

施工途中で、小型機械から大型機械へ変更し、同時に作業ヤードも狭くなる。最も適切な対応はどれか。

ア．能力が高い機械なので安全性も自動的に高くなる。
イ．作業ヤードが狭くなっても立入範囲は変えない。
ウ．機械重量・旋回範囲・地盤支持力・人との動線・搬入経路を再評価し、作業計画を更新する。
エ．工法変更は工程だけに影響し安全評価は不要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 大型化に伴い別の危険が増える場合がある。
イ：× 人と機械の接近リスクが変化する。
ウ：○ 機械と作業空間が同時に変化すると複数の危険源が増減するため、既存評価をそのまま流用してはならない。
エ：× 作業条件変更時はリスク再評価が重要である。

総合解説：変更管理とリスクアセスメントを連動させることで、新しい危険を施工前に把握できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0012

安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：応用

重機接触リスク対策として誘導員を配置したが、ヒヤリハットが減らない。最も適切な対応はどれか。

ア．誘導員を配置済みなのでリスク評価を終了する。
イ．ヒヤリハット報告を止めれば問題は解決する。
ウ．作業者の注意不足だけが原因と決めつける。
エ．誘導方法だけでなく動線分離、死角、合図、重機台数、作業区域を再分析し、より上位の対策を追加する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 効果が出ていないため再評価が必要である。
イ：× 危険自体は残る。
ウ：× 設備・動線・作業計画も含めて再分析する。
エ：○ 対策後も事故前兆が続くなら、その対策が十分でない可能性を疑い、原因と低減策を見直す。

総合解説：安全対策は実施した事実ではなく、リスクが実際に低減したかで評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0013

安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

安全な作業計画を作成する目的として、最も適切なものはどれか。

ア．作業方法、手順、人員、機械、危険区域、合図等を事前に整理し、安全に実行できる状態をつくる。
イ．現場で毎回即興で方法を決めるため。
ウ．作業員ごとに異なる合図を使うため。
エ．工程だけ決め、安全条件は施工中に考えるため。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 建設作業では複数の人・機械・工程が関係するため、事前に役割と手順を明確にすることが重要である。
イ：× 作業前に安全条件を確認する。
ウ：× 合図や指示系統は統一する。
エ：× 安全条件も計画段階で整理する。

総合解説：作業計画は施工方法と安全管理を一体化し、作業前に共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0014

安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

複数の作業班が同じ場所で作業する場合、作業指揮について最も適切なものはどれか。

ア．各班が互いに連絡せず独自判断で作業する。
イ．指示系統と責任者を明確にし、作業間の連絡調整を行う。
ウ．責任者を決めず一番声の大きい人の指示に従う。
エ．同じ場所なら作業内容が違って調整不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：× 相互干渉を防ぐ調整が必要である。
イ：○ 複数班が独立に判断すると、合図の食い違いや同時作業による災害が起きやすい。
ウ：× 正式な指揮系統を明確にする。
エ：× 同時作業の干渉を確認する必要がある。

総合解説：安全な現場運営には、誰が作業開始・中止・変更を指示するかを明確にすることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0015

安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

重機やクレーンの作業で合図を定める主な理由として、最も適切なものはどれか。

ア．作業者ごとに違う合図を使うため。
イ．合図なしで運転者が推測して操作できるようにするため。
ウ．運転者と作業者の意思疎通を統一し、誤操作や接触を防ぐため。
エ．合図者を複数同時にして指示を増やすため。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 合図は統一する。
イ：× 意思疎通を明確にする必要がある。
ウ：○ 合図の意味や発信者が曖昧だと、運転者が誤った操作をする危険がある。
エ：× 原則として指示系統を明確にする。

総合解説：合図は事前に定め、関係者へ周知し、運転者が迷わない運用にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0016

安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

前夜の大雨後に掘削作業を再開する。作業開始前の対応として最も適切なものはどれか。

ア．予定時刻になれば点検せず開始する。
イ．雨が止んでいれば地山状態は必ず元通りである。
ウ．工程遅延を避けるため湧水を無視する。
エ．地山・法面・土止め・湧水・作業床などの状態を確認し、安全を確認してから再開する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 降雨による条件変化を確認する必要がある。
イ：× 含水増加や亀裂等が残る場合がある。
ウ：× 地盤安定や作業安全に影響する。
エ：○ 大雨後は地山が軟弱化し崩壊リスクが高まるため、平常時と同じ前提で開始してはならない。

総合解説：作業計画には、悪天候後の再開条件や点検項目を含めると実効性が高い。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0017

安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

現場条件が変わり、予定していた作業手順では危険が生じると判断された。最も適切な対応はどれか。

ア．作業を一旦止め、変更後の方法・危険・役割を確認して関係者へ周知してから再開する。

イ．作業員個人の判断で各自別々の方法へ変更する。

ウ．工程優先で予定どおり続行する。

エ．変更内容を管理者だけが知り、作業者には伝えない。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 安全条件が変化したときは、無理に元計画を続けず作業計画を更新する。

イ：× 統一した手順と指揮が必要である。

ウ：× 危険が判明した時点で見直すべきである。

エ：× 実際に作業する者へ周知が必要である。

総合解説：変更時は、停止→再評価→手順変更→周知→再開の流れを取る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0018

安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

舗装工事と資材搬入が同じ狭い区域で重なる。最も適切な作業計画はどれか。

ア．両作業を最大人数で同時に行う。

イ．時間帯や作業区域を分け、車両動線と作業員動線を調整する。

ウ．車両と作業員に同じ狭い通路を使わせる。

エ．連絡担当を置かず各班で判断する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 混雑と干渉が増える。

イ：○ 同一空間での同時作業は接触・巻き込まれの危険を増すため、時間・空間分離が有効である。

ウ：× 接触リスクが高い。

エ：× 相互調整が必要である。

総合解説：作業計画では、工程短縮だけでなく作業間の干渉を減らす配置・時間調整が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0019

安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

掘削中に地山から急な湧水と亀裂が確認された。現場指揮として最も適切なものはどれか。

ア．観察を続けながら掘削を加速する。
イ．作業員を近づけて亀裂を手で確認させる。
ウ．作業を中止して作業員を安全な場所へ退避させ、地山・排水・土止め条件を再確認する。
エ．工程遅延になるので報告せず続行する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 崩壊リスクを高める。
イ：× 危険区域への接近を避ける。
ウ：○ 崩壊の前兆となる異常が見られる場合、まず人を危険区域から退避させる。
エ：× 重大災害のおそれがある。

総合解説：異常時の作業中止・退避基準を事前に決めておくと、現場判断が遅れにくい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0020

安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

法令上、作業主任者を選任する作業で、作業主任者に期待される基本的な役割として最も適切なものはどれか。

ア．作業場所に来なくても名前だけ貸せばよい。
イ．工事費だけを決定する。
ウ．作業者が各自判断できるよう指示を出さない。
エ．作業方法を決定し、作業を直接指揮し、必要な設備・保護具等の状態や使用状況を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 実際の作業を管理・指揮する必要がある。
イ：× 作業安全の直接的管理が役割である。
ウ：× 危険作業では統一した指揮が必要である。
エ：○ 対象作業ごとに法令で職務は異なるが、作業方法の決定・直接指揮・設備等の確認が重要な役割である。

総合解説：作業主任者制度は、特定の危険作業を専門知識のある者の指揮下で実施するための仕組みである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0021

安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：応用

同一現場で複数の請負人が重機、クレーン、掘削を同時に行う。最も適切な安全管理はどれか。

ア．作業内容・指示系統・合図・立入禁止区域を共通ルールとして連絡調整する。
イ．各社が自社内だけ安全なら相互調整は不要とする。
ウ．クレーン合図を各社で別々に定める。
エ．立入禁止区域を会社ごとに秘密にする。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 請負人ごとの安全ルールが個別最適でも、同一場所では相互干渉を管理しなければならない。
イ：× 他社作業との干渉が災害原因になる。
ウ：× 同一場所では合図の統一が重要である。
エ：× 関係者間で共有する必要がある。

総合解説：混在作業では、会社間の境界より現場全体の危険区域・指示系統を優先して調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0022

安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：応用

工期短縮のため、掘削と土止め支保工組立を同じ狭い区画で同時施工する案が出た。最も適切な判断はどれか。

ア．工期が短くなるなら安全検討は不要である。
イ．掘削段階ごとの地山安定、支保工設置時期、人と重機の干渉を評価し、安全が確保できなければ同時施工しない。
ウ．土止めは最終掘削後にまとめて設置すればよい。
エ．作業区域が狭いほど同時施工に向いている。

答え・解説

正答：イ

ア：× 安全確保が前提である。
イ：○ 工期短縮案は、施工段階の構造安定と作業干渉を確認して初めて採用できる。
ウ：× 途中段階の崩壊を防ぐ必要がある。
エ：× むしろ干渉リスクが高まる。

総合解説：施工管理では、工程・安全を分離せず、施工段階ごとの危険を評価して手順を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0023

安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

保護具の使用に関する考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．どの危険にも同じ保護具一種類で対応する。
イ．破損していても着用していればよい。
ウ．作業に存在する危険・有害性に適した保護具を選び、正しく着用・点検する。
エ．保護具があれば設備対策は一切不要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 危険の種類に応じた選定が必要である。
イ：× 保護性能が得られない。
ウ：○ 保護具は対象危険に適合し、正常な状態で正しく使用して初めて効果を発揮する。
エ：× より上位の安全対策も併用する。

総合解説：保護具は安全対策の最後の防護層として重要だが、危険源対策と併用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0024

安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

掘削作業で物体の飛来・落下による危険がある場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．帽子であれば保護性能に関係なくよい。
イ．危険があっても経験者は着用不要である。
ウ．保護帽を現場に置くだけで着用しなくてよい。
エ．作業者に適切な保護帽を着用させる。

答え・解説

正答：エ

ア：× 安全性能を備えた適切な保護帽が必要である。
イ：× 経験に関係なく保護措置が必要である。
ウ：× 実際に着用する必要がある。
エ：○ 労働安全衛生規則では、明り掘削で物体の飛来・落下による危険を防ぐため保護帽の着用を求めている。

総合解説：保護帽は飛来・落下物等の危険に対する基本的な個人用保護具である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0025

安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

立入禁止区域を設定する主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．危険源に関係のない人が危険範囲へ入ることを防ぎ、接触・落下・崩壊等の災害を防止するため。
イ．作業員の休憩場所を増やすため。
ウ．危険区域内の人数を増やすため。
エ．標識を置けば誰でも自由に入れるようにするため。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 立入管理は危険源と人を物理的・運用的に分離する有効な対策である。
イ：× 危険区域への侵入防止が目的である。
ウ：× 危険曝露を減らすことが目的である。
エ：× 立入を禁止・制限する。

総合解説：立入禁止は標識だけでなく、柵・監視・誘導など現場条件に応じて確実に実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0026

安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

高さ2m以上の箇所で作業床設置が困難なため、墜落制止用器具を使用する。最も適切な対応はどれか。

ア．器具を着用すればフックを掛けなくてもよい。
イ．安全に取り付けられる設備等を設け、器具と取付設備の異常の有無も確認する。
ウ．どの構造物にも強度確認なしで掛けてよい。
エ．一度設置した取付設備は点検不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：× 適切な取付けが必要である。
イ：○ 安衛則では、高さ2m以上で墜落制止用器具を使用させる場合、安全な取付設備等を設けることが求められている。
ウ：× 取付設備の安全性確認が必要である。
エ：× 異常の有無を随時点検する必要がある。

総合解説：墜落制止用器具は、着用だけでなく取付設備・使用方法まで含めて安全性を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0027

安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

重機の旋回範囲内へ測量員が入る必要がある。最も適切な対応はどれか。

ア．運転中でも測量員が重機を避けながら入る。
イ．測量員が手を挙げれば運転者確認なしで入る。
ウ．重機を停止し、運転者と合図・立入時期を確認してから必要な作業を行う。
エ．作業を急ぐ場合は立入禁止を解除したことにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 死角や急旋回により危険である。
イ：× 相互確認が必要である。
ウ：○ 危険区域内での人作業が必要な場合、機械との同時作業を避けることが基本である。
エ：× 危険が残るなら管理が必要である。

総合解説：立入管理は『入れない』だけでなく、必要な立入りを安全に行う手順まで決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0028

安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

墜落制止用器具のランヤードに著しい損傷が見つかった。最も適切な対応はどれか。

ア．軽く結んでそのまま使用する。
イ．作業時間が短ければ損傷品でも使用する。
ウ．損傷箇所を隠して他の作業者へ渡す。
エ．使用を中止し、適切な点検・交換等を行って安全な器具を使用する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 強度・機能が保証できない。
イ：× 墜落時の危険性は作業時間に関係しない。
ウ：× 不適切な使用を招く。
エ：○ 損傷した保護具は本来の保護性能を発揮できない可能性がある。

総合解説：保護具は使用前点検と適切な保管・交換が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0029

安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

クレーンの設置位置を変更した結果、旋回範囲が歩行者通路と重なるようになった。最も適切な対応はどれか。

ア．新しい旋回範囲に合わせて立入禁止区域や歩行者通路を見直し、関係者へ周知する。
イ．以前の立入禁止範囲をそのまま使う。
ウ．歩行者に注意するよう伝えるだけで通路を維持する。
エ．旋回範囲の変更を標識に反映しない。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 機械位置が変われば危険範囲も変わるため、旧区画のままでは管理できない。
イ：× 新しい危険範囲をカバーできない。
ウ：× 物理的な分離を検討するべきである。
エ：× 関係者が誤認するおそれがある。

総合解説：立入区域・通路・標識は、施工段階や機械配置の変化に合わせて更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0030

安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：応用

高所作業の直下を第三者通路が通る現場で最も適切な安全対策はどれか。

ア．高所作業者が保護帽を着用すれば第三者対策は不要である。
イ．高所からの落下防止、作業区域の立入制限、必要な保護具、第三者通路の迂回・防護を組み合わせる。
ウ．第三者通路をそのままにして注意看板だけ置く。
エ．作業者の墜落対策だけ行い落下物対策はしない。

答え・解説

正答：イ

ア：× 保護帽は落下物そのものを防がない。
イ：○ 作業者の墜落と第三者への落下物という異なるリスクがあるため、複数の防護層が必要である。
ウ：× 落下リスクが高ければ通路分離等を検討する。
エ：× 第三者災害のリスクが残る。

総合解説：安全対策は対象者と危険源ごとに整理し、作業者・第三者双方のリスクを低減する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0031

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

高さ2m以上の箇所で墜落により労働者に危険を及ぼすおそれがある作業について、基本的な措置として最も適切なものはどれか。

ア．高さに関係なく作業床は設けない。
イ．熟練者だけなら作業床を省略する。
ウ．足場を組み立てる等の方法により作業床を設ける。
エ．作業時間が短ければ無措置でよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 墜落危険がある場合は所要の措置が必要である。
イ：× 経年数で法令上の墜落防止措置が不要にはならない。
ウ：○ 労働安全衛生規則では、高さ2m以上の墜落危険箇所では、原則として作業床を設けることとしている。
エ：× 短時間でも墜落災害は起こり得る。

総合解説：高所作業では、まず安定した作業床等で墜落そのものを防ぐことが基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0032

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

高さ2m以上の箇所で作業床の設置が困難な場合の措置として、最も適切なものはどれか。

ア．作業床が作れないなら墜落防止措置は不要である。
イ．保護帽だけで墜落そのものを防止できる。
ウ．作業員が注意すれば器具等は不要である。
エ．防網を張る、要求性能墜落制止用器具を使用させる等の墜落防止措置を講じる。

答え・解説

正答：エ

ア：× 代替措置を講じる必要がある。
イ：× 保護帽は墜落を防ぐ設備ではない。
ウ：× 注意だけに依存してはならない。
エ：○ 作業床設置が困難な場合も、無措置で作業するのではなく代替の墜落防止措置が必要である。

総合解説：墜落防止は、作業床・囲い等を優先し、困難な場合には墜落制止用器具等を適切に使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0033

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

高さ2m以上の作業床の端や開口部で墜落のおそれがある場合、基本的な措置として最も適切なものはどれか。

ア．囲い、手すり、覆い等を設ける。
イ．開口部を目立たなくして作業者が気にしないようにする。
ウ．端部に資材を置いて簡易的にふさぐ。
エ．注意看板だけで必ず十分とする。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 作業床端部や開口部は墜落の主要な危険箇所であり、物理的な防護を設ける。
イ：× 危険を隠すのではなく防護する。
ウ：× 安定した囲い・覆い等が必要である。
エ：× 墜落のおそれがある場合は物理的防護が基本である。

総合解説：開口部や端部は、作業中の移動や後退時に見落としやすいため、確実な設備対策が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0034

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

足場における作業床について、現行の労働安全衛生規則に適合する考え方として最も適切なものはどれか。

ア．床材幅は10cm程度でよく、隙間は20cm程度まで認められる。
イ．床材は原則として幅40cm以上とし、床材間の隙間は3cm以下とする。
ウ．床材の幅・隙間には一切基準がない。
エ．床材間の隙間は大きいほど資材が落ちにくい。

答え・解説

正答：イ

ア：× 歩行・作業の安定を確保できない。
イ：○ 安衛則では足場の作業床について幅や隙間等の基準が定められている。
ウ：× 現行規則で基準が定められている。
エ：× 隙間が大きいほど転落・落下リスクが高まる。

総合解説：足場では作業床幅、床材間隙間、端部防護、支持・緊結等を一体で確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0035

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場でその日の作業を開始する前の管理として、最も適切なものはどれか。

ア：足場は完成時に一度だけ点検すればよい。
イ：点検者を決めず、気づいた人だけが見る。
ウ：指名された点検者が、作業箇所の墜落防止設備の取り外し・脱落等を点検し、異常があれば補修する。
エ：異常を見つけても作業終了後まで補修しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 使用中の異常や取り外しを確認する必要がある。
イ：× 点検者を指名して実施する。
ウ：○ 現行規則では、足場作業開始前に点検者を指名して墜落防止設備の状態を点検させることが求められている。
エ：× 作業前に安全な状態へ戻す必要がある。

総合解説：足場点検は形式的なチェックではなく、実際の作業箇所にある墜落防止設備の状態確認が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0036

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

強風・大雨後に足場を使用する場合、最も適切な対応はどれか。

ア：見ただ目で倒れていなければ点検不要である。
イ：風が弱くなった直後に点検せず作業を始める。
ウ：床材だけ確認し、緊結部は確認しない。
エ：作業開始前に床材、緊結部、接続部、墜落防止設備等を点検し、異常があれば補修する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 局部的な緩みや脱落がある可能性がある。
イ：× 作業開始前の安全確認が必要である。
ウ：× 複数の点検項目を確認する。
エ：○ 悪天候後は足場の緩み・脱落・損傷が生じる可能性があるため、再使用前点検が必要である。

総合解説：足場は強風・大雨・大雪・地震、組立て・一部解体・変更後などに状態が変化し得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0037

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

資材搬入のため、作業中に一時的に足場の手すり等を取り外す必要がある。最も適切な対応はどれか。

ア．代替の墜落防止措置を講じ、関係者以外の立入を制限し、必要がなくなれば直ちに原状復旧する。
イ．手すりを外したまま翌日まで放置する。
ウ．取り外したことを誰にも知らせない。
エ．作業員の注意だけで代替措置を行わない。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 足場用墜落防止設備を一時的に外す場合も、無防護状態を放置してはならない。
イ：× 必要がなくなれば直ちに復旧する。
ウ：× 危険状態を周知・管理する必要がある。
エ：× 墜落制止用器具等の措置が必要となる。

総合解説：一時変更は事故が起きやすい。取外し中の代替措置と原状復旧までを作業手順に含める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0038

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場上に資材を仮置きする場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．足場上なら資材重量を考慮しなくてよい。
イ．足場の許容荷重や作業床の支持状態を確認し、偏載・過積載を避ける。
ウ．重い資材ほど端部へ集中して置く。
エ．通路を塞いでも積載量が少なければ問題ない。

答え・解説

正答：イ

ア：× 過大荷重で変形・倒壊するおそれがある。
イ：○ 足場は作業者だけでなく仮置き資材の荷重も受けるため、想定以上の積載を避ける。
ウ：× 偏載や落下リスクが高まる。
エ：× 避難・通行安全も確保する必要がある。

総合解説：足場使用時は、荷重、通路、落下物、作業空間を合わせて管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0039

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場上で小型工具を使用し、直下に作業員がいる。最も適切な対策はどれか。

ア．工具が軽ければ落下しても危険はない。
イ．保護帽だけで落下物対策をすべて代替する。
ウ．工具の落下防止、幅木等の設備、直下の立入制限などを組み合わせる。
エ．直下作業者へ声を掛けるだけで同時作業を続ける。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 高所からの落下物は重大災害につながる。
イ：× 落下防止そのものを優先する。
ウ：○ 高所作業では作業者自身の墜落だけでなく、工具・材料の落下による下方災害も管理する。
エ：× 立入制限等を検討する。

総合解説：高所作業は上下方向の危険を含むため、落下防止と下方立入管理を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0040

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場への昇降方法として、最も適切なものはどれか。

ア．筋かいや手すりを足掛かりにして昇降する。
イ．資材を持ったまま片手で建地を登る。
ウ．昇降設備が遠ければ足場外側から登る。
エ．安全な昇降設備を設け、作業者が足場部材をよじ登らなくてよいようにする。

答え・解説

正答：エ

ア：× 本来の用途ではなく不安定である。
イ：× 墜落リスクが高い。
ウ：× 安全な昇降経路を使用する。
エ：○ 足場への出入り時も墜落リスクがあるため、適切な昇降設備を使用する。

総合解説：足場の安全性は作業床だけでなく、昇降・通路・開口部も含めて評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0041

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

外壁作業のため足場を一部変更し、同時に資材置場も足場上へ移すことになった。最も適切な対応はどれか。

ア．変更部の構造・緊結・作業床・墜落防止設備と、新たな積載荷重・通路を再確認してから使用する。
イ．手すりだけ確認すれば足場構造や荷重は確認不要である。
ウ．資材置場変更は足場安全に影響しない。
エ．変更後も点検記録は旧状態のままでよい。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 足場変更と荷重条件変更が同時に起きるため、単一項目ではなく全体を再評価する必要がある。
イ：× 構造安全と積載条件も重要である。
ウ：× 荷重・通路・落下物リスクが変わる。
エ：× 現状を反映した点検・記録が必要である。

総合解説：足場の一部解体・変更後は、墜落防止設備だけでなく構造・荷重・動線を総合確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0042

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

強風が予想される日に足場上で長尺材を取り扱う作業を計画している。最も適切な判断はどれか。

ア．工期が遅れていれば風の強さに関係なく実施する。
イ．風によるあおられ・落下・足場影響を評価し、危険が予想される場合は作業中止や延期を含めて判断する。
ウ．作業員を増やせば強風リスクは必ず消える。
エ．材料を手で強く持てば足場の点検は不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：× 危険が予想される場合は安全を優先する。
イ：○ 長尺材は風の影響を受けやすく、高所では作業者の墜落と材料落下の双方のリスクが増える。
ウ：× 人員増加だけでは風荷重を除けない。
エ：× 足場状態と作業条件の両方を確認する。

総合解説：気象条件は高所作業の安全性を大きく左右するため、作業中止基準を事前に設定しておく。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0043

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

高所で頻繁に横移動する作業について、墜落制止用器具の掛け替え回数が多く、未接続時間が生じている。最も適切な改善はどれか。

ア．作業者に急いで掛け替えるよう指示するだけにする。
イ．移動中だけフックを外すことを標準にする。
ウ．連続して安全に接続できる親綱・設備や、より安定した作業床など、未接続を生じにくい作業方法へ見直す。
エ．経験者だけなら未接続時間を許容する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× ヒューマンエラーを構造的に減らせない。
イ：× 墜落防止機能が失われる。
ウ：○ 個人の注意だけで掛け替えミスを防ぐより、作業方法・設備で未接続状態を減らす方が確実である。
エ：× 経験に関係なく墜落リスクがある。

総合解説：墜落対策では、器具使用を前提にするだけでなく、常時安全を確保しやすい設備・手順へ改善する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0044

墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場の作業床について、床材と建地との間に大きな隙間が生じている。最も適切な対応はどれか。

ア．足元を見て歩けば大きな隙間があってもよい。
イ．現行基準に適合するよう隙間を是正し、墜落・物体落下の危険がない状態にしてから使用する。
ウ．隙間に資材を仮置きしてふさげば正式な是正は不要である。
エ．作業者が少ない日は隙間を放置してよい。

答え・解説

正答：イ

ア：× 設備面で墜落・落下を防ぐ必要がある。
イ：○ 足場作業床では床材間だけでなく、床材と建地との隙間にも基準があり、危険な隙間を放置してはならない。
ウ：× 安定した作業床として適切に是正する。
エ：× 人数に関係なく墜落危険がある。

総合解説：足場の作業床は、幅・床材間隙間・建地との隙間・支持状態を一体で点検する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0045

墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

地山の崩壊により労働者へ危険を及ぼすおそれがある場合の基本対策として、最も適切なものはどれか。

ア．崩壊の兆候があっても掘削速度を上げる。
イ．土質に関係なく常に垂直掘削する。
ウ．作業者の注意だけで地山崩壊を防ぐ。
エ．安全な勾配とする、落石を除去する、土止め支保工等を設けるなどの措置を講じる。

答え・解説

正答：エ

ア：× 危険を増大させる。
イ：× 地山条件に応じた対策が必要である。
ウ：× 構造・排水等の対策が必要である。
エ：○ 安衛則では、地山崩壊等のおそれがある場合に、勾配・落石除去・擁壁・土止め等の措置を求めている。

総合解説：掘削安全は地山形状・土質・地下水・周辺荷重等を考慮して計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0046

墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

土止め支保工に使用する材料として、最も適切なものはどれか。

ア．著しい損傷、変形、腐食がなく、必要な性能を有する材料。
イ．著しく腐食した部材を補強せず使用する。
ウ．大きく曲がった部材をそのまま使用する。
エ．亀裂がある部材を状態確認せず使用する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 安衛則では、著しい損傷・変形・腐食がある材料を土止め支保工に使用してはならない。
イ：× 必要強度を確保できないおそれがある。
ウ：× 変形部材は支保性能に問題を生じる。
エ：× 欠点の有無を確認する必要がある。

総合解説：仮設構造物であっても、部材品質は安全性を直接左右する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0047

墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

土止め支保工を組み立てる際の組立図について、最も適切な説明はどれか。

ア．完成後に実際の配置を思い出して作成する。
イ．部材の配置・寸法・材質と、取付けの時期・順序を示し、その図に基づいて組み立てる。
ウ．部材名だけを書き、取付け順序は示さない。
エ．現場作業者が自由に配置を変更できるよう寸法を示さない。

答え・解説

正答：イ

ア：× あらかじめ作成して組立てに用いる。
イ：○ 土止めは掘削進行に合わせた設置時期・順序が重要であり、組立図で明確にする。
ウ：× 時期・順序も重要な情報である。
エ：× 計画した構造で組み立てる必要がある。

総合解説：土止め支保工は施工段階ごとの安定性を確保するため、計画された組立順序を守る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0048

墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

土止め支保工を設けた掘削現場で大雨があった。最も適切な対応はどれか。

ア．雨が止めば点検せず再開する。
イ．支保工が立っていれば地山状態は確認しない。
ウ．作業再開前に支保工部材の損傷・変形・変位、切りばり等の状態を点検し、異常があれば補強・補修する。
エ．異常を見つけても予定掘削深さまで続行する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 地山状態は雨後も変化している可能性がある。
イ：× 支保工と周辺地山を合わせて確認する。
ウ：○ 大雨により地山が軟弱化すると土圧や変形が変化するため、点検が必要である。
エ：× 直ちに補強・補修等が必要である。

総合解説：土止め支保工は定期点検に加え、地震・大雨等の後に状態確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0049

墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

掘削縁のすぐ近くに大量の掘削土や資材を積む計画について、最も適切な考え方はどれか。

ア．掘削土は元の地盤なので掘削縁に置いても影響しない。
イ．資材重量は地山安定と無関係である。
ウ．重いものほど掘削縁へ寄せる。
エ．上載荷重が地山安定へ与える影響を考慮し、必要な離隔や移動を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 積載による上載荷重が生じる。
イ：× 地盤への荷重として作用する。
ウ：× 安定性低下の可能性がある。
エ：○ 掘削縁付近の荷重は土圧増加や崩壊の一因になり得る。

総合解説：掘削計画では、地山形状だけでなく周辺の重機・土砂・資材による上載荷重も考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0050

墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

掘削底から湧水が増え、法面下部が軟弱化している。最も適切な対応はどれか。

ア．作業を必要に応じ中止し、排水方法と地山安定を確認して補強・勾配変更等を検討する。
イ．湧水が多いほど地山が締まるので掘削を続ける。
ウ．水だけ汲み出し、法面状態は確認しない。
エ．作業員を法面直下に集めて排水する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 水は地山強度を低下させ崩壊を誘発するため、排水と安定対策を合わせて行う。
イ：× 一般に軟弱化・崩壊リスクが増す。
ウ：× 地山の変状確認が必要である。
エ：× 崩壊危険区域への立入を避ける。

総合解説：地山崩壊対策では、地下水・雨水等を排除することも重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0051

墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

掘削中に切りばりの緩みと腹起しの変位が確認された。最も適切な対応はどれか。

ア．変位が少量なら記録せず掘削を続ける。
イ．危険区域の作業を中止し、原因を確認して直ちに補強・補修する。
ウ．切りばりを外して様子を見る。
エ．作業員を切りばり直下に配置して監視させる。

答え・解説

正答：イ

ア：× 進行性変位の可能性がある。
イ：○ 支保工部材の緩み・変位は土圧支持能力の低下を示す可能性がある。
ウ：× 支保能力を低下させる。
エ：× 危険区域へ人を置かない。

総合解説：土止めの変位は崩壊の前兆となり得るため、異常時の中止・補強基準を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0052

墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

土止め支保工の組立て等の作業における作業主任者の職務として、最も適切なものはどれか。

ア．作業方法は各作業者に任せ、主任者は書類だけ作る。
イ．不良な材料も工程優先で使用させる。
ウ．作業方法を決定して直接指揮し、材料・器具等を点検し、必要な保護具の使用状況を監視する。
エ．危険区域の保護具使用状況は確認しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 直接指揮が重要な職務である。
イ：× 欠点のある材料等を取り除く。
ウ：○ 安衛則において土止め支保工作業主任者の職務が定められている。
エ：× 使用状況の監視も職務に含まれる。

総合解説：危険作業では、資格を有する作業主任者の指揮下で計画どおり施工する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0053

墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：応用

工程短縮のため、予定した切りばり設置前にさらに深く掘削する案が出た。最も適切な判断はどれか。

ア．最終的に切りばりを設置すれば途中段階は無関係である。
イ．掘削が速いほど土圧は小さくなるので問題ない。
ウ．作業者を増やせば支保工なしでも安全になる。
エ．設計・組立図で定めた支保工取付時期と各掘削段階の安定を再確認し、安全が確認できなければ進めない。

答え・解説

正答：エ

ア：× 途中で崩壊する危険がある。
イ：× 土圧や変形を無視できない。
ウ：× 構造的な安定対策が必要である。
エ：○ 土止めは最終形だけでなく、掘削途中の各段階で安定している必要がある。

総合解説：仮設構造物は施工順序と一体で機能するため、工程変更時は段階ごとの安定性を再評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0054

墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：応用

深い掘削の近くに大型クレーンを新設し、同時に地下水位も上昇している。最も適切な対応はどれか。

ア．クレーン荷重と地下水上昇が土留め・地山へ与える影響を再評価し、必要な補強・配置変更・計測強化を行う。
イ．クレーンと地下水は別問題なので掘削安全に影響しない。
ウ．土止めが設置済みなら周辺条件変更は無視できる。
エ．変状が出るまで計測・確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 上載荷重増加と地盤強度低下が同時に起こるため、既存の掘削計画の前提が変わっている。
イ：× 双方が地山・土留め安定へ影響する。
ウ：× 設計条件を超える可能性がある。
エ：× 予防的な再評価が必要である。

総合解説：掘削安全では、地山・地下水・上載荷重・周辺構造物を総合的に管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0055

墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

移動式クレーンの使用に関する基本として、最も適切なものはどれか。

ア．短時間なら定格荷重を超えてよい。
イ．定格荷重を超える荷重をかけて使用しない。
ウ．運転者が熟練していれば過負荷でもよい。
エ．地盤が固ければ定格荷重は無視できる。

答え・解説

正答：イ

ア：× 過負荷使用は認められない。
イ：○ クレーン等安全規則では、移動式クレーンを定格荷重を超えて使用することを禁止している。
ウ：× 経験で機械の安定限界は変わらない。
エ：× 機械能力と安定条件の両方を守る必要がある。

総合解説：吊上げ計画では、吊荷重量だけでなく作業半径等に応じた定格荷重を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0056

墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

移動式クレーン作業の合図について、最も適切なものはどれか。

ア．周囲の誰でも同時に指示を出してよい。
イ．合図方法は毎回変えてよい。
ウ．一定の合図を定め、合図を行う者を指名して、その合図に従って運転する。
エ．運転者が見えない場合でも推測で操作する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 指示が競合して誤操作につながる。
イ：× 一定の合図を定める。
ウ：○ 複数の曖昧な指示を避け、運転者と合図者の意思疎通を明確にすることが重要である。
エ：× 確実な合図・連絡方法が必要である。

総合解説：同一現場で複数請負人がクレーン作業を行う場合も、合図の統一が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0057

墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

アウトリガーを備えた移動式クレーンを使用する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．狭い現場では張出し量に関係なく最大能力で使用する。
イ．片側だけ地盤が弱くても敷板なしで使用する。
ウ．アウトリガーが浮いても吊上げを続ける。
エ．原則として最大限張り出し、張出しが制限される場合はその幅に応じた定格荷重を確実に下回る条件で使用する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 張出し幅に応じた能力制限がある。
イ：× 支持地盤の安定も確認する必要がある。
ウ：× 転倒の重大な兆候である。
エ：○ アウトリガー張出し幅はクレーンの安定性と定格荷重に直結する。

総合解説：クレーン設置では、アウトリガー張出し、地盤支持力、敷板等を合わせて確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0058

墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

同じ吊荷を、当初より遠い位置へ吊り下ろすため作業半径が大きくなった。最も適切な対応はどれか。

ア．変更後の作業半径に対応する定格荷重を確認し、能力内か再判定する。
イ．吊荷重量が同じなら能力確認は不要である。
ウ．遠くなるほどクレーンは安定するので確認不要である。
エ．運転速度を上げれば能力不足を補える。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 一般に作業半径が大きくなると吊上げ能力は低下するため、条件変更時の再確認が必要である。
イ：× 作業半径で定格荷重が変わる。
ウ：× 転倒モーメントは増える方向になる。
エ：× 能力限界は速度で補えない。

総合解説：揚重計画は荷重・半径・ブーム条件・設置地盤をセットで管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0059

墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

クレーンで荷を吊り上げている最中の作業員配置として、最も適切なものはどれか。

ア．荷の真下で手を添えて位置を調整する。
イ．吊荷が落下・激突するおそれのある範囲へ作業者を立ち入らせない。
ウ．吊荷が軽ければ頭上を通過させてよい。
エ．保護帽を着用すれば真下への立入を常に認める。

答え・解説

正答：イ

ア：× 落下時に回避できない。
イ：○ 吊荷や玉掛用具の異常があれば落下する可能性があるため、危険範囲から人を離す。
ウ：× 重量にかかわらず落下リスクを管理する。
エ：× 保護帽だけで吊荷落下の重大リスクは防げない。

総合解説：玉掛け作業では、吊荷の下に人を入れない配置と誘導方法を計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0060

墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

強風のため移動式クレーン作業に危険が予想される。最も適切な対応はどれか。

ア．吊荷を軽くすれば風に関係なく続行する。
イ．作業員を増やして吊荷を手で押さえる。
ウ．作業を中止し、必要に応じジブ位置を固定するなど転倒防止措置を講じる。
エ．風速確認をやめて作業を継続する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 機械・ブーム・荷の風影響が残る。
イ：× 二次災害の危険が高い。
ウ：○ クレーン等安全規則では、強風で危険が予想される場合は作業を中止することとしている。
エ：× 危険予測に必要な情報を失う。

総合解説：強風時は吊荷のあおられだけでなく、クレーン本体の転倒・ジブ挙動も考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0061

墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：応用

移動式クレーンのアウトリガー設置位置が埋戻し直後の軟弱地盤である。最も適切な対応はどれか。

ア．アウトリガーを張り出せば地盤支持力は確認不要である。
イ．吊荷が軽ければ地盤沈下は絶対に起こらない。
ウ．沈下したら作業中にアウトリガーを追加で伸ばせばよい。
エ．地盤支持力を確認し、必要な敷板・地盤補強・設置位置変更を行って沈下・転倒を防止する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 地盤反力を安全に支持できる必要がある。
イ：× 機体自重や反力も地盤へ作用する。
ウ：× 事前に安定を確保する必要がある。
エ：○ クレーン能力が十分でも、支持地盤が沈下すれば機体が傾き転倒する危険がある。

総合解説：揚重計画では、機械の定格能力と地盤の支持能力を両方満たす必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0062

墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：応用

吊荷重量は同じだが、作業半径が増え、アウトリガーを十分に張れず、風も強くなってきた。最も適切な判断はどれか。

ア．複数条件をまとめて再評価し、定格荷重・安定性・風影響を満たせなければ作業を中止・計画変更する。
イ．吊荷重量が変わらないので当初計画のまま続ける。
ウ．運転者の経験で数値条件を補える。
エ．工程遅延を避けるため安全確認を後回しにする。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 各条件が単独で許容範囲でも、同時に悪化すると安全余裕が小さくなる。
イ：× 半径・張出し・風で安全条件が変わる。
ウ：× 機械・自然条件の限界は経験で無効にできない。
エ：× 揚重作業では安全条件の確認が優先である。

総合解説：揚重計画変更時は、一つの条件だけでなく荷重・半径・地盤・張出し・気象を総合評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0063

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

建設工事における「公衆災害」の対象として、最も適切なものはどれか。

ア：工事従事者本人の労働災害だけ。

イ：工事原価の超過だけ。

ウ：工事関係者以外の第三者の生命・身体・財産に対する危害や迷惑。

エ：工程遅延だけ。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 公衆災害は工事関係者以外の第三者を対象とする。

イ：× 財務上の問題は公衆災害の定義ではない。

ウ：○ 国土交通省の建設工事公衆災害防止対策要綱は、公衆に対する生命・身体・財産の危害や迷惑の防止を目的としている。

エ：× 第三者への危害・迷惑の防止が中心である。

総合解説：施工者は作業員の安全だけでなく、通行人・住民・近隣施設等への影響も管理する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0064

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

市街地の工事現場で作業区域を明確に区画する主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア：工事車両が歩道を自由に走れるようにするため。

イ：工事内容を隠すことだけが目的である。

ウ：作業員の休憩場所を増やすため。

エ：第三者が危険な工事区域へ誤って立ち入ることを防止するため。

答え・解説

正答：エ

ア：× 第三者との分離が目的である。

イ：× 危険区域への立入防止が主目的である。

ウ：× 公衆保護のための区画である。

エ：○ 作業場の区画は工事関係者と公衆の動線を分離し、第三者災害を防ぐ基本措置である。

総合解説：仮囲い・柵・標識・出入口管理を組み合わせ、第三者が危険区域へ入りにくい構造とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0065

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

道路に面した高所作業で第三者への落下物災害を防止する基本対策として、最も適切なものはどれか。

ア．材料・工具の落下防止を行い、必要に応じ防護設備や通行規制を設ける。
イ．作業者が保護帽を着ければ通行人への対策は不要である。
ウ．軽い工具なら道路上へ落下しても危険はない。
エ．通行人に上を見て歩くよう求めるだけにする。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 第三者通路上への物体落下は重大災害につながるため、発生源対策と通行者保護を組み合わせる。
イ：× 第三者は別に保護する必要がある。
ウ：× 高所からの落下は軽量物でも危険である。
エ：× 発生源側で落下を防止する。

総合解説：公衆災害防止では、作業区域内の安全対策を現場外の第三者まで拡張して考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0066

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

工事車両が公道へ出入りする工事出入口の管理として、最も適切なものはどれか。

ア．工事車両を優先し、歩行者に常時回避を求める。
イ．歩行者・自転車・一般車両の動線を確認し、必要な誘導と視認性確保を行う。
ウ．見通しが悪くても誘導員等は不要である。
エ．出入口付近へ資材を積んで視界を狭くする。

答え・解説

正答：イ

ア：× 第三者の安全を確保する必要がある。
イ：○ 工事車両の出入りは第三者との接触事故が起こりやすいため、出入口を重点管理する。
ウ：× 視認性不足を補う対策が必要である。
エ：× 死角を減らすべきである。

総合解説：出入口では、歩行者優先、徐行、誘導、ミラー・照明等を現場条件に応じて組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0067

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

工事車両のタイヤに付着した泥が公道へ流出している。最も適切な対応はどれか。

ア．雨で自然に流れるまで放置する。
イ．泥を道路中央へ集めて車に踏ませる。
ウ．タイヤ洗浄や清掃を行い、道路の汚損・滑りによる第三者事故を防止する。
エ．工事車両だけ通れれば問題ないとする。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 道路の安全性・環境を悪化させる。
イ：× 事故リスクを増やす。
ウ：○ 泥の流出は道路利用者のスリップや飛散、周辺迷惑につながるため、現場内で発生源対策を行う。
エ：× 公衆の通行安全を確保する必要がある。

総合解説：第三者災害防止には、落下・接触だけでなく道路汚損や飛散等による迷惑・事故防止も含まれる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0068

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

近隣住民から工事振動に関する苦情が続いている。最も適切な対応はどれか。

ア．苦情が法的事故ではないため無視する。
イ．苦情を避けるため測定や記録をやめる。
ウ．住民に工事だから我慢するよう伝えるだけにする。
エ．発生状況を確認し、作業時間・工法・機械配置等の改善を検討し、必要な説明・連絡を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：× 周辺への影響を把握し対策する。
イ：× 実態把握ができなくなる。
ウ：× 可能な低減策と適切な説明が必要である。
エ：○ 公衆災害防止では身体・財産への危害だけでなく、工事による迷惑の低減も重要である。

総合解説：周辺影響は、発生源対策・伝播対策・作業時間調整・コミュニケーションを組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0069

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

夜間に道路沿いの工事を行う場合の第三者安全対策として、最も適切なものはどれか。

ア．作業区域、歩行経路、規制材、出入口が十分に認識できる照明・表示を確保する。
イ．作業員が見えれば歩行者側の照明は不要である。
ウ．規制材を黒く塗って目立たなくする。
エ．照明を車道側へ強く向け、運転者を眩惑させる。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 夜間は視認性低下により第三者が工事区域へ進入したり障害物へ接触したりしやすい。
イ：× 第三者が安全に通行できる視認性が必要である。
ウ：× 視認性を高める必要がある。
エ：× グレアにも配慮する。

総合解説：夜間工事では、明るさだけでなく道路利用者からの見え方を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0070

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

強風後、仮囲いの一部が傾き歩道側へ倒れるおそれがある。最も適切な対応はどれか。

ア．軽く傾いているだけなら通行を継続させる。
イ．第三者を近づけない措置を行い、直ちに補強・復旧して安全を確認する。
ウ．歩道側から人が支えて使用を続ける。
エ．次の定期点検日まで放置する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 倒壊リスクを評価して安全側に対応する。
イ：○ 仮囲い自体が第三者災害の原因になる場合があるため、異常時には迅速な立入制限と復旧が必要である。
ウ：× 第三者を危険にさらす。
エ：× 緊急性のある異常は直ちに処置する。

総合解説：公衆防護設備も悪天候や工事進捗で状態が変化するため、点検・維持管理が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0071

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

歩道の一部を工事区域として使用するため、歩行者を迂回させる。最も適切な計画はどれか。

ア．歩行者を車道へ突然誘導し、保護設備は設けない。
イ．迂回路の途中で案内をなくす。
ウ．安全で連続した迂回経路を確保し、段差・幅員・見通し・案内表示に配慮する。
エ．段差や障害物は工事中なので放置する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 車両との接触リスクが高い。
イ：× 誤進入を招く。
ウ：○ 単に『通行止め』とするだけでなく、第三者が安全に移動できる代替経路を用意する。
エ：× 転倒等の第三者災害につながる。

総合解説：歩行者対策では高齢者・子ども・車いす等も含め、安全に通行できる経路を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0072

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

仮囲いにより工事車両の運転者から歩道が見えにくい。最も適切な改善はどれか。

ア．警笛だけ鳴らしてそのまま出庫する。
イ．歩行者に工事車両を避ける責任を負わせる。
ウ．仮囲いをさらに高くして死角を増やす。
エ．見通しを改善し、必要に応じ誘導員・ミラー・出入口位置変更などを組み合わせる。

答え・解説

正答：エ

ア：× 歩行者が気づかない場合もある。
イ：× 施工者側で第三者安全を確保する。
ウ：× 視認性を改善する必要がある。
エ：○ 死角がある場合、運転者の注意だけでなく、見通しと誘導を設備・運用で改善する。

総合解説：出入口事故対策は、速度・視認性・誘導・歩車分離を組み合わせると有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0073

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：応用

小学校の正門前で工事を行い、登下校時間に大型車両の搬入も必要である。最も適切な計画はどれか。

ア．登下校時間を避けた搬入、歩車分離、誘導員配置、学校との事前調整を組み合わせる。
イ．児童が注意すれば通常どおり大型車を集中搬入する。
ウ．学校へ連絡せず当日に通路を変更する。
エ．登下校時間ほど搬入効率が高いので優先する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 子どもは予測しにくい動きをするため、交通量の時間変動と施設利用状況を踏まえた予防策が必要である。
イ：× 第三者側の注意だけに依存してはならない。
ウ：× 事前調整・周知が重要である。
エ：× 第三者リスクが高い時間を避けるべきである。

総合解説：第三者災害防止では、周辺施設の利用実態に合わせて施工時間・車両計画を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0074

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：応用

掘削現場で土留め変位が急増し、工事区域外の歩道にも影響する可能性が生じた。最も適切な対応はどれか。

ア．工事区域内だけの問題として歩道は通常どおり通す。
イ．作業を中止し、歩道の立入・通行を必要に応じ規制し、土留め・周辺地盤を確認して関係機関と連携する。
ウ．変位計の記録を停止して様子を見る。
エ．歩行者へ自己責任で通行してもらう。

答え・解説

正答：イ

ア：× 第三者への影響可能性を考慮する必要がある。
イ：○ 危険が工事区域外へ波及する可能性があるため、公衆の安全確保を最優先して防護範囲を広げる。
ウ：× 状況把握を継続すべきである。
エ：× 施工者側で危険を防止する。

総合解説：公衆災害の兆候がある場合は、現場境界にこだわらず影響範囲を安全側に設定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0075

公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

道路上で工事又は作業を行う場合の道路使用許可について、最も適切な説明はどれか。

ア．施工者が工事契約を持っていれば道路使用許可は常に不要である。
イ．道路管理者への連絡だけで警察の許可は一切不要である。
ウ．道路交通法に基づき、原則としてその場所を管轄する警察署長の道路使用許可が必要となる。
エ．夜間工事なら道路使用許可制度の対象外である。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 道路交通上の許可は別に必要となる場合がある。
イ：× 道路使用許可と道路占用許可は別制度である。
ウ：○ 警察庁は、道路における工事・作業を道路使用許可が必要な行為として案内している。
エ：× 時間帯だけで対象外にはならない。

総合解説：道路上の工事では、道路使用許可のほか道路占用許可等が必要となる場合がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0076

公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

道路工事で交通規制を計画する主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．工事車両だけを優先し一般交通を無視するため。
イ．標識を減らして運転者の判断に任せるため。
ウ．工事区域へ一般車を誘導するため。
エ．工事区域と一般交通を安全に分離し、道路利用者を安全・円滑に誘導するため。

答え・解説

正答：エ

ア：× 一般交通の安全・円滑にも配慮する。
イ：× 適切な案内・規制が必要である。
ウ：× 危険区域から分離する。
エ：○ 交通規制は工事をしやすくするだけでなく、第三者の安全と交通の円滑を確保するために行う。

総合解説：規制計画では、予告・誘導・徐行・車線移行・歩行者経路を連続的に考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0077

公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

工事現場の交通誘導員の役割として、最も適切なものはどれか。

ア：工事車両・一般車両・歩行者の動きを確認し、安全な通行を誘導する。

イ：工事車両だけを見て歩行者は確認しない。

ウ：自分の判断で交通標識と逆の指示を常時出す。

エ：誘導中に現場から離れてもよい。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 見通しの悪い場所や車線規制箇所では、適切な誘導により接触・錯綜を防ぐ。

イ：× 第三者全体の安全を確認する。

ウ：× 規制計画と整合した誘導が必要である。

エ：× 必要な位置で安全確認を継続する。

総合解説：誘導員配置だけでなく、合図・配置位置・視認性・交代方法も計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0078

公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

カーブの先で片側交互通行を行う工事について、最も適切な規制計画はどれか。

ア：カーブを曲がった直後だけに最初の規制材を置く。

イ：運転者が十分手前から規制を認識できるよう予告・誘導を行い、安全に減速・停止できる配置とする。

ウ：予告標識を工事区域の中にだけ置く。

エ：規制開始位置を日ごとに知らせず変更する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 事前認知時間が不足する。

イ：○ 見通しの悪い場所では、規制区間直前だけの表示では急制動や追突を招く。

ウ：× 工事区域へ入る前に周知する必要がある。

エ：× 道路利用者・誘導員の混乱を招く。

総合解説：交通規制は、道路利用者が予測可能な形で徐々に速度・進路を変えられるよう計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0079

公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

歩道工事で仮設歩行者通路を車道側へ設ける場合、最も適切な対応はどれか。

ア．白線だけ引けば高速車両と隣接していても十分である。
イ．通路途中に資材を置いて幅を狭める。
ウ．車両と歩行者を防護柵等で分離し、安全な幅・段差・案内を確保する。
エ．夜間は通路を見えにくくする。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 現場条件に応じた防護が必要である。
イ：× 安全な連続通路を確保する。
ウ：○ 歩行者を車道側へ移す場合は、車両との接触を防ぐ物理的な分離が重要である。
エ：× 視認性を確保する。

総合解説：歩行者通路は、連続性・幅・段差・照明・車両分離を総合して設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0080

公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

搬入車両が予定より早く到着し、公道上に列を作り始めた。最も適切な対応はどれか。

ア．道路上にできるだけ多く待機させる。
イ．交差点内まで車列を伸ばす。
ウ．待機車両の台数を管理しない。
エ．場外待機場所や搬入予約を調整し、公道上の長時間待機を避ける。

答え・解説

正答：エ

ア：× 一般交通を妨げる。
イ：× 交通安全上危険である。
ウ：× 搬入能力との調整が必要である。
エ：○ 工事車両の路上滞留は渋滞・視界障害・事故の原因となるため、搬入管理で防止する。

総合解説：交通安全と工程管理は連動しており、荷下ろし能力に合わせた搬入時間管理が有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0081

公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

施工進捗により車線規制の位置を変更する場合、最も適切な対応はどれか。

ア．許可・協議条件を確認し、標識・規制材・誘導員配置を新しい規制形態に合わせて変更する。
イ．古い規制標識を残したまま新規制を始める。
ウ．誘導員へ変更内容を知らせない。
エ．許可条件に関係なく現場判断だけで大幅変更する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 規制位置が変われば道路利用者の動線も変わるため、旧配置のままでは危険である。
イ：× 矛盾する案内で混乱を招く。
ウ：× 統一した誘導ができない。
エ：× 必要な手続き・調整を確認する。

総合解説：交通規制の変更は、現場設備・誘導・許可条件・周知を同時に更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0082

公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

道路工事で車線を狭める際、緊急車両の通行も想定する必要がある。最も適切な考え方はどれか。

ア．緊急車両は工事区域に絶対来ない前提とする。
イ．規制幅・資機材配置・誘導方法を検討し、必要時に緊急車両が安全に通行できる運用を準備する。
ウ．資材を車線全幅へ固定し移動不能にする。
エ．誘導員に緊急時の手順を知らせない。

答え・解説

正答：イ

ア：× 予測不能な緊急通行にも備える。
イ：○ 交通規制は通常交通だけでなく、緊急時の通行や周辺アクセスにも配慮する必要がある。
ウ：× 緊急対応の妨げとなる場合がある。
エ：× 事前に対応を共有する。

総合解説：道路工事の安全計画は、通常時だけでなく事故・火災等の非常時動線も考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0083

公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：応用

交通量の多い交差点付近で夜間工事を行い、大型車の出入りもある。最も適切な計画はどれか。

ア：大型車の出入りだけ管理し歩行者は対象外とする。
イ：照明を対向車へ直接向けて目立たせる。
ウ：規制予告、照明、歩行者導線、車両誘導、右左折交通への影響を総合して関係機関と調整する。
エ：規制形態を当日現場だけで決める。

答え・解説

正答：ウ

ア：× すべての道路利用者の安全を確保する。
イ：× 眩惑を防ぎつつ視認性を確保する。
ウ：○ 交差点では車両・自転車・歩行者の動線が多く、夜間視認性と工事車両が重なるため複合対策が必要である。
エ：× 関係機関との事前調整が重要である。

総合解説：交差点近接工事では、交通流全体を見て規制・誘導を計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0084

公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：応用

工程遅延を回復するため、翌日に搬入車両を2倍に増やす案が出た。現場前道路は狭く歩行者も多い。最も適切な判断はどれか。

ア：工程遅延中なら道路条件に関係なく車両を増やす。
イ：公道上の待機が増えても工事効率だけを優先する。
ウ：歩行者が避ければよいので誘導計画は変更しない。
エ：荷下ろし能力、道路容量、歩行者安全、待機場所を再評価し、危険や渋滞が増すなら時間分散等の別案を選ぶ。

答え・解説

正答：エ

ア：× 交通安全を損なってはならない。
イ：× 第三者への影響を管理する必要がある。
ウ：× 車両増加に合わせて安全計画を見直す。
エ：○ 工程回復のための資源追加が、公衆災害リスクを高めないかを確認する必要がある。

総合解説：施工管理では、工程対策が周辺交通へ与える二次影響も評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0085

公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：基礎

道路掘削前の地下埋設物調査として、最も適切なものはどれか。

ア．管理者資料を確認し、必要に応じ探査・試掘等で位置や深さを確認する。
イ．道路面に表示がなければ埋設物なしと判断する。
ウ．本掘削で接触してから位置を確認する。
エ．管理者が不明なら調査を省略する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 図面だけでは現地位置と差がある場合があるため、管理者との調整と現地確認を組み合わせる。
イ：× 表示の有無だけでは判断できない。
ウ：× 重大事故・供給停止につながる。
エ：× 照会・探査等で確認する必要がある。

総合解説：地下埋設物事故はガス・電気・通信・上下水道など広範な第三者被害につながるため、事前調査が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0086

公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：基礎

クレーンやバックホウを架空線の近くで使用する場合の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．運転者が架空線を見ていれば他の対策は不要である。
イ．架空線の位置・高さ・危険範囲を確認し、必要な離隔、誘導、監視、電力会社等との調整を行う。
ウ．吊荷だけ架空線に触れなければブーム接近は問題ない。
エ．夜間は架空線が見えにくいので位置確認を省略する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 死角やブーム挙動があるため多重対策が必要である。
イ：○ 架空線接触は感電や停電につながるため、機械の最大到達範囲を含めて事前に管理する。
ウ：× 機械本体・ワイヤ等の接近も危険である。
エ：× むしろ視認性確保と事前確認が重要である。

総合解説：架空線対策では、機械・吊荷・ワイヤ・作業者を含む接近範囲を考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0087

公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

試掘したところ、埋設管が図面位置より工事側へ大きくずれていた。最も適切な対応はどれか。

ア．図面が正しいとして実物を無視する。

イ．埋設管を無断で移設する。

ウ．実位置を記録し、管理者と確認して掘削方法・保護・施工範囲を見直す。

エ．差異を作業員に知らせず本掘削を続ける。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 現地確認結果を反映する必要がある。

イ：× 管理者との調整・手続きが必要である。

ウ：○ 図面との差異が判明した場合は、実位置を基に安全計画を更新する必要がある。

エ：× 接触事故の危険が高い。

総合解説：埋設物調査は確認だけでなく、結果を施工手順と作業員周知へ反映して初めて有効になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0088

公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

埋設管の近接部を掘削する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．埋設管の直上まで大型バケットで高速掘削する。

イ．位置確認後は目印を消して通常掘削する。

ウ．管理者との確認内容を作業者へ伝えない。

エ．位置を明確にし、損傷を避けられる方法・範囲で慎重に掘削し、必要に応じ管理者立会い等を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：× 接触・破損リスクが高い。

イ：× 作業中も位置を明確にする。

ウ：× 現場へ情報共有する必要がある。

エ：○ 埋設物近傍では大型機械による一気掘削を避け、位置・材質・保護条件に応じた方法を選ぶ。

総合解説：近接作業では、機械作業範囲・手掘り範囲・立会い・保護方法等を事前に定める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0089

公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

掘削中に未知の配管を損傷し、内容物が漏れている可能性がある。最も適切な初動はどれか。

ア．作業を停止し、人を安全な場所へ退避させ、火気等の危険を避けて関係管理者・緊急機関へ連絡する。
イ．内容物を近づいて臭いで確認する。
ウ．土で埋め戻して報告しない。
エ．漏れを止めるため無資格者が配管を切断する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 内容物が不明な配管損傷は、ガス・電気・薬品等の危険を想定して安全側に行動する。
イ：× 有害・可燃性物質のおそれがあり危険である。
ウ：× 被害拡大や二次災害につながる。
エ：× 管理者・専門者の対応が必要である。

総合解説：埋設物損傷時は、人命安全・危険区域設定・連絡・供給停止等の緊急対応を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0090

公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

移動式クレーンのブームが作業中に架空線へ近づく可能性がある。最も適切な対策はどれか。

ア．ブーム先端が見えなくても感覚で操作する。
イ．作業範囲を制限し、架空線位置を明示して必要な監視・誘導を行い、接近を防ぐ。
ウ．架空線の真下を吊荷待機場所にする。
エ．合図者を置く場合も架空線情報は知らせない。

答え・解説

正答：イ

ア：× 接触事故の危険が高い。
イ：○ 運転者の視界だけではブーム先端と架空線の距離を正確に把握しにくい場合がある。
ウ：× 接近機会を増やす。
エ：× 危険位置を共有する必要がある。

総合解説：架空線近接では、設備側対策、作業範囲制限、監視、関係者周知を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0091

公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：応用

狭い道路下にガス・電気・通信・水道が近接して埋設されている。最も適切な施工計画はどれか。

ア．最も大きい管だけ確認し、細い管は無視する。
イ．各管理者資料を別々に見て位置関係を重ね合わせない。
ウ．各管理者の情報を統合し、試掘で実位置を確認して、掘削順序・保護・機械作業範囲を調整する。
エ．試掘せず図面だけで機械掘削する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 通信・電気等も重大な第三者影響を生じる。
イ：× 全体配置を把握する必要がある。
ウ：○ 埋設物が輻輳する場所では、一つの管だけを確認しても他設備を損傷する可能性がある。
エ：× 現地誤差を考慮できない。

総合解説：輻輳部では、複数情報を一つの施工図・現地表示へ統合し、全作業者が位置関係を理解できるようにする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0092

公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：応用

地下に埋設管、上空に架空線がある狭い現場でクレーン付き掘削機を使用する。最も適切な対応はどれか。

ア．地下埋設物を確認すれば架空線は無視してよい。
イ．架空線だけ確認し、バケット掘削深さは自由とする。
ウ．運転者一人にすべて判断させ、現場表示や誘導を行わない。
エ．地下の掘削限界と上空の機械到達範囲を同時に管理し、機械配置・誘導・作業順序を調整する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 上空接触による感電・停電リスクが残る。
イ：× 地下埋設物損傷リスクがある。
ウ：× 情報共有と作業範囲管理が必要である。
エ：○ 上下双方にインフラがある場合、地中接触と上空接触のリスクを同時に評価する必要がある。

総合解説：複数インフラ近接作業では、機械の全可動範囲を三次元的に考えて安全域を設定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0093

環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

特定建設作業の騒音対策として機械配置と防音措置を見直したところ、敷地境界線の騒音が87 dBから82 dBへ低下した。対策結果として最も適切な評価はどれか。

ア．対策後は85 dB以下となり、5 dBの低減と基準適合が確認できる。
イ．対策前が87 dBだったため、対策後も自動的に基準超過と扱う。
ウ．82 dBは振動基準75 dBを超えるため、騒音対策は失敗と評価する。
エ．騒音対策の効果は測定値では確認せず、苦情件数だけで判定する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 特定建設作業の騒音は敷地境界線で85 dB以下が基準で、対策後82 dBは適合し、対策前から5 dB低減している。
イ：× 対策後の実測値で再評価する。
ウ：× 騒音と振動の基準を混同している。
エ：× 実測値による客観的な効果確認が必要である。

総合解説：環境対策は法令基準を守るだけでなく、対策前後の実測値を比較して低減効果を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0094

環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

特定建設作業の振動対策として施工方法を見直したところ、敷地境界線の測定値が78 dBから73 dBへ低下した。対策効果の評価として、最も適切なものはどれか。

ア．測定値は5 dB低下したが、騒音の85 dB基準と比較しなければ効果を評価できない。
イ．対策後は75 dB以下となっており、振動低減効果と基準適合の両方を確認できる。
ウ．対策前が78 dBであったため、対策後の73 dBも自動的に基準超過となる。
エ．振動対策の効果は測定値では評価せず、作業時間だけで判断する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 振動は騒音基準ではなく振動の基準で評価する。対策前後の差も確認する。
イ：○ 特定建設作業の振動基準75 dB以下に対し、対策後73 dBであり、5 dBの低減と基準適合が確認できる。
ウ：× 対策後の値を基準と比較して判断する。対策前の超過だけで対策後まで超過とはならない。
エ：× 振動レベルの測定値は対策効果を評価する重要な指標である。

総合解説：環境対策は『対策した』だけで終えず、対策前後の測定値と規制基準を比較して効果を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0095

環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

建設工事の騒音を低減する発生源対策として、最も適切なものはどれか。

ア．騒音の大きい機械を住宅側へ近づける。
イ．異常音が出ても整備せず使用を続ける。
ウ．低騒音型機械の採用や機械の適切な整備を行う。
エ．防音対策の代わりに測定をやめる。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 受音点との距離が近くなり騒音影響が増える。
イ：× 整備不良は騒音増大の原因となる。
ウ：○ 騒音対策では、発生源そのものを小さくすることが基本で、低騒音機械や整備不良の改善が有効である。
エ：× 騒音そのものは低減しない。

総合解説：環境対策は、発生源対策、伝搬経路対策、作業時間調整などを組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0096

環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

住宅に近接した現場でコンプレッサーを使用する。騒音低減策として最も適切なものはどれか。

ア．住宅側の境界ぎりぎりに設置する。
イ．仮囲いを撤去して音を逃がす。
ウ．夜間に集中運転すれば周辺影響は小さいと考える。
エ．可能な範囲で住宅から離し、遮音効果のある仮囲い等も活用する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 距離が近くなり影響が大きくなる。
イ：× 住宅方向への遮蔽効果が失われる。
ウ：× 時間帯により周辺への影響が大きくなる場合がある。
エ：○ 受音点から発生源を離し、伝搬経路に遮蔽物を設けることは騒音低減に有効である。

総合解説：騒音は発生源、伝搬経路、受音点の関係を考えて対策する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0097

環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

振動を発生する施工機械を住宅近くで使用する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．施工方法、機械種類、発生源と住宅の距離、地盤条件を確認して振動影響を低減する。
イ．騒音が小さければ振動も必ず小さいと判断する。
ウ．地盤条件は振動伝搬に関係しない。
エ．住宅からの距離が変わっても影響は同じとする。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 振動は地盤を介して伝わるため、発生源の大きさだけでなく地盤・距離・施工方法が影響する。
イ：× 騒音と振動は伝搬機構が異なる。
ウ：× 地盤特性により伝わり方が異なる。
エ：× 一般に距離は重要な要因である。

総合解説：騒音・振動を一括りにせず、それぞれの発生・伝搬特性に応じた対策を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0098

環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

指定地域内の特定建設作業で、敷地境界線の騒音レベルを測定したところ88 dBであった。最も適切な判断はどれか。

ア．75 dB以下でないため振動基準だけに違反している。
イ．85 dBの基準を超えているため、作業条件や対策を見直す必要がある。
ウ．100 dB未満なので問題ない。
エ．現場内で発生した音なので敷地境界の測定値は無視してよい。

答え・解説

正答：イ

ア：× これは騒音測定値であり、騒音基準85 dBと比較する。
イ：○ 特定建設作業騒音は敷地境界線で85 dBを超えないことが基準であり、88 dBは超過している。
ウ：× 現行基準は85 dBである。
エ：× 敷地境界線の値が基準判定に用いられる。

総合解説：基準超過時は、機械変更、配置変更、遮音、作業時間等を含めた低減策を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0099

環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

近隣から『特定時間帯だけ振動が強い』との苦情があった。最も適切な対応はどれか。

ア．苦情が測定値ではないため無視する。
イ．すべての機械を同時に動かして原因を確認する。
ウ．作業内容と時間帯を照合し、必要に応じ振動を測定して発生源を特定し、施工方法等を見直す。
エ．作業記録を消して時間帯との照合をできなくする。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 苦情は環境影響の重要な情報となる。
イ：× 原因の切り分けが難しくなる。
ウ：○ 時間帯と作業内容に対応付けることで、原因となる機械や作業を特定しやすい。
エ：× 原因分析に作業記録が必要である。

総合解説：環境苦情では、測定データと施工記録を組み合わせることで原因を特定することが有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0100

環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

住宅側に近い場所で複数の騒音機械を同時運転すると苦情が増える。最も適切な改善はどれか。

ア．苦情が増える時間帯にさらに機械を追加する。
イ．全機械を住宅側へ集約する。
ウ．作業時間を記録せず原因分析を困難にする。
エ．同時稼働を避ける施工順序や時間分散を検討し、必要に応じ機械配置も変更する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 周辺影響を増大させる。
イ：× 受音点側の影響を大きくする。
ウ：× 稼働状況の記録が対策検討に役立つ。
エ：○ 複数騒音源の同時稼働は周辺騒音を増大させるため、時間的な分離が有効な場合がある。

総合解説：設備対策だけでなく、作業順序・時間帯の管理も騒音対策の重要な手段である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0101

環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：応用

住宅近接現場で、騒音は基準内だが振動が強く、住民から苦情が出ている。最も適切な対応はどれか。

ア．騒音が基準内でも振動を別途評価し、振動源となる工法・機械・施工条件を見直す。
イ．騒音が基準内なので振動は測定しない。
ウ．騒音計の値を振動値として読み替える。
エ．苦情原因は必ず騒音なので振動対策は不要とする。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 騒音と振動は別の管理対象であり、一方が基準内でも他方の問題が解消したとは限らない。
イ：× 振動は別の法令・基準で管理する。
ウ：× 測定対象・単位・方法が異なる。
エ：× 事実確認して原因に応じ対策する必要がある。

総合解説：環境管理では、複数の影響要因を個別に測定・評価し、総合的に施工方法へ反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0102

環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：応用

工程遅延を回復するため、騒音・振動を伴う作業を夜間へ移す案が出た。最も適切な判断はどれか。

ア．基準値以内なら時間帯は一切関係しない。
イ．法令・地域の時間規制、周辺施設・住民への影響を確認し、必要なら別の回復策を選ぶ。
ウ．夜間の方が交通量が少ないため必ず環境影響も小さい。
エ．工程回復中は環境規制を適用しない。

答え・解説

正答：イ

ア：× 時間帯に関する規制もある。
イ：○ 特定建設作業には騒音・振動の大きさだけでなく作業時間帯等の規制もあるため、工程都合だけで変更できない。
ウ：× 生活環境への影響は大きくなる場合がある。
エ：× 法令・許可条件等を守る必要がある。

総合解説：工程変更は安全・環境・交通等の制約を再確認して実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0103

環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

乾燥した土砂を扱う作業で粉じん飛散を抑える基本対策として、最も適切なものはどれか。

ア．土砂を高い位置から落として細かくする。
イ．強風時ほど覆いを外して乾燥させる。
ウ．必要に応じ散水等で湿潤化し、粉じんの発生・飛散を抑える。
エ．粉じんが見えなければ清掃や対策は不要とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 粉じん発生を増やす。
イ：× 飛散リスクが高まる。
ウ：○ 粉じん対策では、発生源の土砂を湿潤化することが代表的な発生抑制策である。
エ：× 微細な粉じんも含め継続管理が必要である。

総合解説：粉じん対策は散水、覆い、運搬時の飛散防止、路面清掃等を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0104

環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

掘削現場から泥分を多く含む濁水が発生した。基本的な対応として、最も適切なものはどれか。

ア．最も濁っている状態で一気に放流する。
イ．排水経路を確認せず近くの側溝へ流す。
ウ．沈殿池に堆積した土砂を放置し容量を減らす。
エ．沈砂・沈殿等で土粒子を除去し、排水条件を確認して適切に処理する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 環境影響を大きくする。
イ：× 流出先と排水条件を確認する必要がある。
ウ：× 処理能力が低下する。
エ：○ 濁水をそのまま公共水域等へ流すと周辺環境へ影響するため、土粒子等を分離して処理する。

総合解説：濁水対策では、発生抑制、集水、沈殿、必要な水質確認、適切な放流を一連で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0105

環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

工事現場の排水計画で、場外から流入する比較的きれいな雨水と施工区域内の濁水を分ける利点として、最も適切なものはどれか。

ア：処理が必要な水量を減らし、濁水処理設備への負荷を小さくできる。

イ：清水を濁水に混ぜるほど処理設備が小さくて済む。

ウ：すべての雨水を掘削底へ集める。

エ：排水経路を区別しない方が水質管理しやすい。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 清水と濁水を混合すると、必要以上の水量を処理しなければならない。
イ：× 処理水量が増える。
ウ：× 浸水・地盤軟弱化を招く。
エ：× 分離する方が管理しやすい。

総合解説：仮設排水では、清濁分離と場外水の迂回が濁水量の低減に有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0106

環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

乾燥した掘削土をダンプトラックで場外搬出する。粉じん対策として最も適切なものはどれか。

ア：荷台を山積みにして速度を上げる。

イ：積載土砂の飛散防止措置を行い、過積載を避け、必要に応じタイヤや道路を清掃する。

ウ：荷台の覆い等を外して風で粉じんを飛ばす。

エ：道路に落ちた土砂は工事完了まで放置する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 土砂飛散と道路汚損のリスクが高まる。
イ：○ 運搬時は荷台からの飛散とタイヤ付着土の道路への持出しを管理する。
ウ：× 周辺環境へ拡散させる。
エ：× 粉じん・交通安全上の問題となる。

総合解説：粉じん管理は現場内だけでなく、搬出経路や公道への影響まで含めて行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0107

環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

沈殿池に土砂が大量に堆積し、有効容量が小さくなっている。最も適切な対応はどれか。

ア：容量が減るほど沈殿時間が長くなるので放置する。
イ：越流水が濁っていても排水量だけ増やす。
ウ：堆積土砂を適切に除去し、必要な滞留・沈殿機能を回復させる。
エ：堆積土砂を排水路へ流して処分する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 一般に処理能力が低下する。
イ：× 周辺環境への影響が大きくなる。
ウ：○ 堆積が進むと滞留時間が短くなり、濁水処理能力が低下する。
エ：× 二次的な濁水発生につながる。

総合解説：仮設環境設備も設置後の点検・清掃・維持管理が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0108

環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

強い降雨が予想される場合の濁水対策として、最も適切なものはどれか。

ア：沈殿池を事前に土砂で埋めておく。
イ：排水路の閉塞は降雨後まで確認しない。
ウ：場内の裸地を増やして雨水にさらす。
エ：排水路・沈殿池の容量、閉塞、ポンプ、土砂流出箇所を事前に確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 処理容量を失う。
イ：× 越流・浸水の原因となる。
ウ：× 濁水・土砂流出が増える。
エ：○ 豪雨時は流入水量が急増するため、排水設備の能力・閉塞状態を事前に確認する必要がある。

総合解説：環境管理では、平常時だけでなく降雨等の変化を予測した予防保全が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0109

環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

粉じん防止のため散水しているが、散水過多で作業路がぬかるみ始めた。最も適切な対応はどれか。

ア：粉じん抑制に必要な散水量へ調整し、排水・路面状態も管理する。

イ：散水量をさらに増やし、路面状態は無視する。

ウ：粉じん対策を完全に中止する。

エ：ぬかるみを乾かすため粉じんを意図的に発生させる。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 環境対策が過剰で別の安全・施工問題を生まないように、必要量と副作用を管理する。

イ：× 滑り・走行性低下の原因となる。

ウ：× 飛散が再発する可能性がある。

エ：× 環境影響を増やす。

総合解説：対策は単独の効果だけでなく、安全・工程・品質への影響も含めて調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0110

環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：応用

豪雨で沈殿池が越流し、濁水が場外へ流出し始めた。最も適切な初動はどれか。

ア：流出量を減らすため記録をやめる。

イ：可能な範囲で流出を止め・迂回・回収し、流出先と影響を確認して関係者へ連絡し、原因設備を復旧する。

ウ：流出先を確認せず場内だけ清掃する。

エ：越流が止まるまで何もせず待つ。

答え・解説

正答：イ

ア：× 実態把握と再発防止に記録が必要である。

イ：○ 事故時は流出拡大防止、影響把握、連絡、原因是正を並行して進める。

ウ：× 場外影響の把握が必要である。

エ：× 可能な緊急措置を講じる。

総合解説：環境事故時は、二次被害を防ぎつつ事実を正確に把握し、適切な連絡・復旧・再発防止へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0111

環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：応用

晴天が続いた後に豪雨予報が出た土工現場で、粉じんと濁水の両方を管理する方法として最も適切なものはどれか。

ア．天候に関係なく同じ散水量を維持する。
イ．粉じん対策だけ行い排水設備を確認しない。
ウ．晴天時には必要な散水・飛散防止を行い、豪雨前には散水を抑えつつ排水路・沈殿池・裸地保護を確認する。
エ．豪雨対策だけ行い乾燥時の飛散は無視する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 豪雨前には不要な水量増加になる場合がある。
イ：× 豪雨時の濁水流出リスクが残る。
ウ：○ 天候により主な環境リスクが粉じんから濁水へ変化するため、対策も切り替える必要がある。
エ：× 晴天時の周辺影響を管理できない。

総合解説：環境管理は固定的な対策ではなく、気象・施工段階に応じてリスクを更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0112

環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

「建設廃棄物」の説明として、最も適切なものはどれか。

ア．工事に使用する新品材料すべて。
イ．完成した構造物だけ。
ウ．施工図や工程表だけ。
エ．建設工事等に伴って生じる廃棄物。

答え・解説

正答：エ

ア：× 使用前の資材そのものは廃棄物ではない。
イ：× 工事に伴って生じる廃棄物を指す。
ウ：× 書類の名称ではなく廃棄物の区分である。
エ：○ 環境省の通知では、建設工事等に伴って生ずる廃棄物を建設廃棄物としている。

総合解説：建設副産物には再利用可能なものも含まれるが、廃棄物に該当するものは廃棄物処理法等に従って扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0113

環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

元請工事で発生したコンクリートがらについて、下請業者から『自社で処分場へ直接持ち込むので、元請は処理状況を確認しなくてよい』との提案があった。最も適切な判断はどれか。

ア．建設工事では原則として元請が排出事業者として処理責任を負うため、委託・運搬・処分の適法性を確認する。

イ．下請が運搬すれば排出事業者は自動的に下請へ移る。

ウ．処分場へ持ち込むのでマニフェストや委託条件の確認は不要である。

エ．工事現場から搬出した時点で元請の責任は必ず終了する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 建設工事では元請が排出事業者として適正処理を管理するのが原則である。

イ：× 実際に運搬する者と排出事業者責任は同一とは限らない。

ウ：× 適正な委託・処理確認が必要である。

エ：× 処理を委託しても排出事業者の責任は残る。

総合解説：建設廃棄物では、誰が運ぶかではなく、排出事業者として誰が処理全体を管理するかを理解する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0114

環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

委託した産業廃棄物について、所定期間を過ぎてもマニフェストの処分終了確認ができない。最も適切な対応はどれか。

ア．返送がないまま処理済みとみなし、記録を終了する。

イ．委託先へ処理状況と未返送理由を確認し、不適正処理のおそれを含めて必要な措置を講じる。

ウ．同じ番号のマニフェストを新たに作成して、処理済みと記入する。

エ．搬出記録を削除し、マニフェストとの不一致をなくす。

答え・解説

正答：イ

ア：× 処理終了を確認できない状態を放置してはならない。

イ：○ マニフェスト未確認時は委託先の処理状況を追跡し、必要な対応を行う。

ウ：× 事実確認をせず書類を作り直すのは不適切である。

エ：× 記録削除は追跡性を失わせる。

総合解説：マニフェストは発行して終わりではなく、最終処分等の終了確認まで追跡して適正処理を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0115

環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

屋外の建設廃棄物保管場所で、強風と大雨が予想されている。木くずの飛散と泥水の流出を防ぐため、最も適切な対応はどれか。

ア．廃棄物を混合して山を高くし、風で動きにくくする。
イ．排水口を塞ぎ、保管場所に雨水をためる。
ウ．種類ごとに区画・表示し、飛散防止の覆い・固定と、濁水を外部へ流出させない排水対策を行う。
エ．強風時だけ作業員を立たせ、飛散した廃棄物を拾わせる。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 混合保管は分別・再資源化を妨げ、飛散防止にもならない。
イ：× 雨水をためると浸出・流出等の別問題を生じる。
ウ：○ 屋外保管では分別に加えて、風による飛散と雨水による流出の両方を防止する。
エ：× 人の対応だけに依存せず物理的な飛散・流出防止を行う。

総合解説：廃棄物保管は分別だけでなく、天候条件を踏まえた飛散・流出・濁水対策まで含めて計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0116

環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

新たに委託を検討している処理業者の許可証を確認したところ、今回発生する廃棄物の種類が許可品目に含まれていなかった。最も適切な対応はどれか。

ア．価格が安ければそのまま委託する。
イ．他の廃棄物の許可があれば今回の種類も扱えるとみなす。
ウ．元請が口頭で了承すれば許可品目外でも委託できる。
エ．今回の廃棄物を適法に扱える許可範囲を持つ業者へ委託先を変更する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 無許可処理につながるため委託できない。
イ：× 許可は対象となる廃棄物種類・業務範囲を確認する必要がある。
ウ：× 当事者間の了承で法定許可を代替できない。
エ：○ 対象廃棄物が許可範囲に含まれる適法な業者を選定する。

総合解説：処理委託先は会社名や価格だけでなく、今回の廃棄物種類と処理内容が許可範囲に含まれるかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0117

環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

対象建設工事から特定建設資材廃棄物が生じる場合の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．分別解体等を行い、法令に基づいて再資源化等を実施する。
イ．再利用可能でもすべて混合して最終処分する。
ウ．対象工事でも分別を一切行わない。
エ．再資源化の可否は記録せず現場判断だけにする。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 建設リサイクル法は、対象工事について分別解体等と特定建設資材廃棄物の再資源化等を求めている。
イ：× 資源の有効利用に反する。
ウ：× 分別解体等が制度の柱である。
エ：× 法令・契約条件等に基づく管理が必要である。

総合解説：建設副産物管理では、廃棄物として捨てる前に分別・再資源化の可能性を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0118

環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

現場内の廃棄物保管場所を管理する方法として、最も適切なものはどれか。

ア．風で飛散しやすい廃棄物を覆いなしで放置する。
イ．種類を識別し、飛散・流出・地下浸透等を防げるよう保管する。
ウ．液状廃棄物を地面へ直接染み込ませる。
エ．保管場所を一般通行路上に設ける。

答え・解説

正答：イ

ア：× 周辺環境へ飛散する。
イ：○ 保管中も廃棄物が周辺環境へ流出しないよう管理する必要がある。
ウ：× 適正処理にならない。
エ：× 第三者安全・適正保管の面で不適切である。

総合解説：現場保管は処理前の一時段階でも、識別・飛散流出防止・安全確保が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0119

環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：応用

委託した産業廃棄物について、マニフェスト上の数量と現場搬出記録に大きな差がある。最も適切な対応はどれか。

ア：数量が違ってても処理業者へ任せたので確認しない。
イ：現場記録をマニフェストの値へ無条件に書き換える。
ウ：搬出記録、マニフェスト、処理業者の情報を照合し、差異の原因と処理状況を確認する。
エ：差異が出たロットの記録を破棄する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 排出事業者として適正処理を確認する必要がある。
イ：× 事実確認をせず記録を合わせてはならない。
ウ：○ 記録の不整合は、誤記だけでなく不適正処理の可能性もあるため、処理経路を追跡する必要がある。
エ：× 追跡性を失う。

総合解説：廃棄物管理の記録は相互に整合していることが重要で、不整合時は原資料へ遡って確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0120

環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：応用

施工方法変更により、コンクリートがらと残土の発生量が大幅に増える見込みとなった。最も適切な対応はどれか。

ア：工程変更だけ反映し、廃棄物計画は変更しない。
イ：増えた廃棄物を種類に関係なく混合する。
ウ：保管場所からあふれても搬出計画は変えない。
エ：発生量、分別・保管スペース、再利用・再資源化先、運搬能力を再検討し、廃棄物管理計画を更新する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 保管・運搬能力不足を招く可能性がある。
イ：× 再資源化・適正処理が困難になる。
ウ：× 飛散・流出・安全問題につながる。
エ：○ 施工方法の変更は廃棄物量や種類、搬出回数にも影響するため、環境管理も連動して見直す必要がある。

総合解説：施工計画変更時は、資源使用量と建設副産物の発生量も含めて環境影響を再評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0121

労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

建設現場で作業員を配置する際の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．作業内容、必要な資格・技能、経験、健康状態、作業間の連携を考慮して配置する。
イ．人数だけ満たせば資格や経験は考慮しない。
ウ．全員を同じ作業へ集中させ、他工程は無人にする。
エ．健康状態に関係なく最も負荷の大きい作業へ配置する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 安全な配置には、単なる人数確保だけでなく、作業に必要な能力と役割分担を合わせることが重要である。
イ：× 危険・資格作業では必要な能力を確認する必要がある。
ウ：× 作業量と安全管理に応じた配分が必要である。
エ：× 作業適性・健康状態にも配慮する。

総合解説：作業員配置は工程・品質・安全のすべてに関係するため、役割・資格・人数・連絡体制を合わせて計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0122

労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

法令上、資格や特別教育等が必要な作業へ作業員を配置する際、最も適切な対応はどれか。

ア．経験が長ければ必要な資格確認を省略する。
イ．必要な資格・教育の要件を満たしていることを確認して配置する。
ウ．資格証等の確認を行わず本人の申告だけで配置する。
エ．人手不足なら未教育者を一時的に危険作業へ配置する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 法令上の要件は経験年数だけでは代替できない。
イ：○ 危険性の高い作業には法令で資格・技能講習・特別教育等が求められるものがある。
ウ：× 必要な要件の確認が重要である。
エ：× 必要な教育・資格を満たしてから配置する。

総合解説：作業員名簿等だけでなく、その作業に必要な資格・教育の有無を施工前に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0123

労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

新しく現場へ入る作業員への対応として、最も適切なものはどれか。

ア．建設経験があれば現場ルールの説明は不要である。
イ．作業開始後に危険箇所を本人に探させる。
ウ．現場特有の危険箇所、作業ルール、避難経路、連絡方法を事前に周知する。
エ．避難経路は災害発生時に初めて知らせる。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 現場固有の危険を共有する必要がある。
イ：× 作業前に周知する。
ウ：○ 他現場で経験があっても、現場ごとに重機動線・立入区域・緊急時対応等は異なる。
エ：× 非常時に備えて事前周知する。

総合解説：新規入場時の教育は、現場固有のリスクと共通ルールを短時間で共有する重要な機会である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0124

労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

複数人で危険作業を行う場合の配置として、最も適切なものはどれか。

ア．全員が同時に別々の指示を出す。
イ．責任者を決めず、都度多数決で操作を決める。
ウ．合図者を作業途中で知らせず変更する。
エ．作業指揮者・合図者等の役割を明確にし、誰の指示で動くか共有する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 指示系統が混乱する。
イ：× 危険作業では明確な指揮が必要である。
ウ：× 運転者等が誤認するおそれがある。
エ：○ 役割が曖昧だと、複数の指示や無指示による誤操作・同時作業が起こりやすい。

総合解説：現場配置では人数だけでなく、指揮・合図・監視・作業実施の役割を区分する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0125

労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

経験の浅い作業員を危険要因の多い作業へ配置する必要がある。最も適切な対応はどれか。

ア．能力に応じた作業範囲とし、必要な教育を行い、熟練者や責任者が指導・確認できる配置にする。
イ．経験を積ませるため初日から単独で危険作業を任せる。
ウ．質問できないよう熟練者と離して配置する。
エ．作業手順を教えず見よう見まねで行わせる。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 経験の浅い作業員へ独力で高リスク作業を任せるのではなく、教育と監督を組み合わせる。
イ：× 誤判断時のリスクが高い。
ウ：× 適切な指導・連絡が必要である。
エ：× 事前教育・手順確認が必要である。

総合解説：人材育成と安全確保を両立させるには、作業難易度に応じて段階的に配置する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0126

労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

人目の届かない場所で単独作業を行う計画について、最も適切な考え方はどれか。

ア．単独なら他人を巻き込まないので常に安全である。
イ．作業の危険度を評価し、必要に応じ単独作業を避けるか、定期連絡・監視・救援手段を確保する。
ウ．携帯電話を持たせれば作業内容に関係なく十分である。
エ．危険作業ほど単独で行わせる。

答え・解説

正答：イ

ア：× 本人の救援が遅れる危険がある。
イ：○ 異常時に自力で連絡できない作業では、発見遅れが重篤化につながる。
ウ：× 通信不能や意識障害等も考慮する。
エ：× 監視・連携が必要となる場合がある。

総合解説：単独作業の可否は、事故発生可能性だけでなく、事故後の発見・救援時間も含めて評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0127

労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

予定作業量に対して人員が不足し、1人当たりの作業負荷が大きくなっている。最も適切な対応はどれか。

ア．休憩をすべて削って不足分を補う。

イ．安全確認を省略して作業速度を上げる。

ウ．工程・人員・作業方法を見直し、過度な負荷や焦りを生じさせない実行可能な配置に調整する。

エ．不足を記録せず個人の努力だけで解決させる。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 疲労と健康障害のリスクが高まる。

イ：× 事故リスクを高める。

ウ：○ 無理な負荷は疲労や手順省略を招き、事故・品質不良の要因となる。

エ：× 計画・資源側の見直しが必要である。

総合解説：工程遅延を人への過負荷だけで解決しようとせず、工法・資源・順序を含めて調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0128

労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

狭い現場で複数の重機と作業員が混在する。最も適切な配置はどれか。

ア．全作業員を重機の近くへ集める。

イ．誘導員を別作業と兼務させ、重機を見ない時間を増やす。

ウ．歩行者通路を重機旋回範囲内に設定する。

エ．重機と人の作業区域を分離し、必要な誘導・監視担当を配置して相互の動きを調整する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 接触リスクが増える。

イ：× 監視機能が低下する。

ウ：× 危険区域と人動線を分けるべきである。

エ：○ 混在作業では、作業者数より人と機械の接点を減らす配置が重要である。

総合解説：作業員配置は動線設計と一体で考え、役割を形だけ置くのではなく実際に機能できる配置とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0129

労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

昼夜交替で連続施工する現場の引継ぎとして、最も適切なものはどれか。

ア．未完了作業、設備異常、危険箇所、変更手順などを次の班へ確実に伝える。
イ．進捗量だけ伝え、安全上の異常は伝えない。
ウ．口頭でも記録でも何も残さず交替する。
エ．次班は前班と無関係なので現場状態を再確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 交替時は情報が途切れやすく、前班が把握した異常や変更が共有されないと事故につながる。
イ：× 危険情報の共有が必要である。
ウ：× 重要事項が抜ける可能性が高い。
エ：× 現場状態は連続している。

総合解説：交替時には、工程・安全・品質・設備状態をまとめて引き継ぐ仕組みを設ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0130

労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

始業前に作業員から強い体調不良の申告があった。最も適切な対応はどれか。

ア．申告しても人手不足なら高所作業へ配置する。
イ．状態を確認し、必要に応じ作業から外す・軽作業へ変更するなど安全側に配置を見直す。
ウ．体調の申告を禁止する。
エ．本人が我慢すると言えば必ず通常作業を続けさせる。

答え・解説

正答：イ

ア：× 危険作業への配置は避けるべき場合がある。
イ：○ 体調不良は判断力・反応・身体機能を低下させ、本人や周囲の事故につながる可能性がある。
ウ：× 早期把握ができなくなる。
エ：× 安全・健康を踏まえた判断が必要である。

総合解説：健康管理情報はプライバシーに配慮しつつ、安全な作業配置へ適切に反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0131

労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

工程短縮のため狭い作業区画へ作業員を2倍に増やす案が出た。最も適切な判断はどれか。

ア．人数が多いほどどの作業でも必ず安全になる。
イ．指揮者を増やして互いに別々の指示を出させる。
ウ．作業分割可能性、作業空間、指揮系統、機械との干渉を評価し、増員で危険が増すなら別の短縮策を検討する。
エ．作業空間に関係なく最大人数を投入する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 過密配置は新たな危険を生む。
イ：× 指示系統が混乱する。
ウ：○ 人数を増やしても作業空間が不足すれば、接触や混乱により生産性と安全性が低下する。
エ：× 適正人数を超える配置は逆効果となる場合がある。

総合解説：人員追加は工程短縮策の一つだが、空間・設備・管理能力という上限を考慮する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0132

労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

同じ工種を2班で施工するが、一方の班は経験者が多く、もう一方は新規入場者が多い。最も適切な配置はどれか。

ア．経験者を一つの班だけに全員集める。
イ．新人班へ最も難しい危険作業を集中させる。
ウ．班編成後は作業実績に関係なく見直さない。
エ．各班に必要な経験者・指導役を配置し、難易度の高い作業を能力に応じて分担する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 他班の指導・判断能力が不足する可能性がある。
イ：× 能力に応じた配置が必要である。
ウ：× 進捗・技能・安全状況に応じて調整する。
エ：○ 班ごとの人数だけを揃えても技能構成が偏ると、安全・品質のばらつきが大きくなる。

総合解説：作業員配置では人数と技能の両方を平準化し、班ごとに安全に判断できる体制をつくる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0133

労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

2025年6月1日施行の改正労働安全衛生規則における熱中症対策強化の対象となる作業条件として、最も適切なものはどれか。

ア．WBGT28 以上又は気温31 以上の場所で、連続1時間以上又は1日4時間を超えて行うことが見込まれる作業。

イ．WBGT20 以上で10分以上のすべての作業。

ウ．気温40 以上の場合だけ。

エ．屋内作業は条件に関係なく対象外。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 厚生労働省通達では、暑熱な場所をWBGT28 以上又は気温31 以上とし、継続1時間以上又は1日4時間超の作業を対象としている。

イ：× 現行の対象条件とは異なる。

ウ：× 気温31 以上又はWBGT28 以上が基準となる。

エ：× 暑熱条件を満たせば屋内外を問わず対象となり得る。

総合解説：熱中症対策は気温だけでなくWBGTも用い、作業時間条件と組み合わせて対象を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0134

労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

改正労働安全衛生規則による熱中症重篤化防止の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．症状が出ても本人の自己判断だけに任せる。

イ．熱中症のおそれがある者を把握・報告する体制と、作業離脱・身体冷却・医療機関搬送等の実施手順を整え、関係者へ周知する。

ウ．救急搬送手順は発症後に初めて考える。

エ．報告先を管理者だけが知り、作業者へ知らせない。

答え・解説

正答：イ

ア：× 早期把握・報告体制が必要である。

イ：○ 2025年6月から、対象作業では報告体制の整備、重篤化防止手順の作成、関係作業者への周知が求められている。

ウ：× 事前に手順を作成し周知する。

エ：× 関係作業者へ周知する必要がある。

総合解説：熱中症では早期発見と初動の遅れが重篤化につながるため、事前の体制整備が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0135

労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

WBGTが高く、熱中症リスクが高い時間帯に屋外重作業を予定している。最も適切な対応はどれか。

ア．WBGTが高いほど休憩を減らして早く終わらせる。
イ．暑い時間帯へ作業を集中させる。
ウ．作業時間短縮、休憩増加、涼しい時間帯への変更、日陰・休憩場所確保等を組み合わせる。
エ．水分摂取を減らして発汗を抑える。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 熱負荷が増大する。
イ：× 熱中症リスクを高める。
ウ：○ 暑熱負荷が高い場合は、曝露時間を減らし休憩・環境改善で体温上昇を抑える。
エ：× 脱水を悪化させる。

総合解説：熱中症予防では、WBGT、作業強度、服装、暑熱順化、個人状態を総合して作業計画を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0136

労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

高温多湿環境での作業中の水分・塩分管理として、最も適切なものはどれか。

ア．喉が渇くまで一切水分を取らない。
イ．汗をかくので水分摂取を禁止する。
ウ．休憩時も水分を与えない。
エ．自覚症状の有無にかかわらず、作業前後と作業中に定期的な水分・塩分摂取を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：× 自覚症状前から脱水が進む場合がある。
イ：× 熱中症リスクを高める。
ウ：× 適切な補給が必要である。
エ：○ 厚生労働省の熱中症予防基本対策では、作業中の定期的な水分・塩分摂取が示されている。

総合解説：摂取方法は持病等にも配慮しつつ、作業者が必要な水分・塩分を確保できる環境を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0137

労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

暑熱順化に関する説明として、最も適切なものはどれか。

ア．暑さに身体が慣れていない作業者には、急に高負荷をかけず計画的に暑熱環境へ適応させる。
イ．暑さに慣れていない人ほど初日から最長時間作業させる。
ウ．暑熱順化は一度経験すれば永久に失われない。
エ．順化は水分補給を不要にする。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 暑熱順化の有無は熱中症リスクに大きく影響するため、休暇明けや新規入場者等にも配慮する。
イ：× 熱中症リスクが高まる。
ウ：× 長期間暑熱作業から離れると適応が低下する場合がある。
エ：× 順化後も水分・休憩等は必要である。

総合解説：熱中症対策では環境だけでなく、作業者が暑熱環境への程度適応しているかも確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0138

労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

作業員にふらつき、反応低下、強い倦怠感など熱中症が疑われる症状が見られた。最も適切な対応はどれか。

ア．少し休ませてすぐ重作業へ戻す。
イ．直ちに作業から離脱させ、涼しい場所で身体冷却等を行い、状態に応じ医療機関への搬送を行う。
ウ．本人が大丈夫と言えば意識状態に関係なく単独で帰宅させる。
エ．症状を隠して工程を優先する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 症状がある場合は安全確認が必要である。
イ：○ 熱中症は重篤化が速い場合があるため、作業継続を避け、早期の冷却・医療対応につなげる。
ウ：× 重篤化・意識障害等に備え適切に見守り・搬送する。
エ：× 重篤化防止が最優先である。

総合解説：熱中症対応は『様子を見る』だけでなく、作業離脱、冷却、連絡、搬送の手順を事前に決めておく。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0139

労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

始業前に睡眠不足や体調不良を訴える作業員を猛暑下の重作業へ配置する場合、最も適切な対応はどれか。

ア．人手不足なら申告を無視して通常どおり配置する。
イ．体調確認を行うと工程が遅れるため禁止する。
ウ．体調を確認し、必要に応じ負荷の軽減・配置変更を行い、重点的に状態を確認する。
エ．全員同じ条件なら個人差は考慮しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 健康障害リスクを高める。
イ：× 早期把握が重要である。
ウ：○ 体調不良等は熱中症発症リスクを高める要因となるため、個人差を考慮した管理が必要である。
エ：× 健康状態・順化等でリスクは異なる。

総合解説：熱中症管理では、気象条件と作業強度だけでなく、作業者個人の健康状態も重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0140

労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：応用

広い現場で作業員が分散し、互いの様子が見えにくい暑熱作業を行う。最も適切な熱中症対策はどれか。

ア．症状が出た本人から電話が来るまで確認しない。
イ．作業員同士の連絡手段をなくす。
ウ．現場が広いほど巡視を減らす。
エ．定期連絡や巡視、バディ制等を活用し、症状がある作業者を早期把握して報告できる体制を作る。

答え・解説

正答：エ

ア：× 意識障害等で本人が報告できない場合がある。
イ：× 早期把握が困難になる。
ウ：× 分散作業ほど確認体制が重要である。
エ：○ 厚生労働省は、報告を待つだけでなく巡視・バディ制・定期連絡等による積極的把握も示している。

総合解説：熱中症の報告体制は、本人の自己申告だけに依存しない仕組みにすると重篤化防止に有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0141

労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：応用

猛暑日に工程遅延を回復するため、昼休みを短縮して連続作業時間を延ばす案が出た。最も適切な判断はどれか。

ア．WBGT・作業強度・体調を踏まえ、休憩短縮ではなく作業時間帯変更や工程再配分など安全な回復策を検討する。

イ．遅延中は熱中症対策を一時停止する。

ウ．昼休みをなくせば暑熱曝露が減る。

エ．作業員全員が若ければWBGTは無視できる。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 暑熱下で連続作業時間を増やすと熱負荷が高まり、工程回復策が健康障害を招く可能性がある。

イ：× 安全衛生対策は工程に優先する。

ウ：× むしろ連続曝露が増える。

エ：× 年齢に関係なく暑熱リスク評価が必要である。

総合解説：工程管理と健康管理を分離せず、気象条件に応じて作業時間・人員・作業内容を再調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0142

労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：基礎

工事現場で重大な異常や災害が発生した際の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．工程を優先し、作業を継続しながら状況を見る。

イ．人命と安全を最優先し、作業中止・退避・救助要請等を行ったうえで被害拡大防止に対応する。

ウ．設備だけを先に守り、人の退避を後回しにする。

エ．異常を報告せず現場だけで隠す。

答え・解説

正答：イ

ア：× 危険が拡大する可能性がある。

イ：○ 緊急時は工程や資材より人命安全が優先され、危険区域からの退避と適切な救援が基本となる。

ウ：× 人命を最優先する。

エ：× 適切な連絡・対応が遅れる。

総合解説：緊急時対応は、停止・退避・連絡・救助・二次災害防止・再開判断の順を意識する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0143

労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：基礎

緊急連絡体制を事前に整備する主な目的として、最も適切なものはどれか。

ア．災害発生後に初めて消防署の連絡先を調べるため。
イ．連絡先を一人だけが知り、他の作業員には知らせないため。
ウ．事故・災害時に、現場責任者、消防・救急、関係機関等へ迅速に連絡できるようにするため。
エ．緊急連絡は工程管理に不要なので整備しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 事前準備が重要である。
イ：× 複数人が必要時に対応できる体制が望ましい。
ウ：○ 緊急時に連絡先を探していると初動が遅れるため、連絡先と役割を事前に共有する。
エ：× 人命救助・被害拡大防止に重要である。

総合解説：緊急連絡網は現場条件や担当者変更に合わせて更新し、見やすい場所へ掲示・共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0144

労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

掘削底で作業員が倒れているが、周囲で地山崩壊の兆候もある。最も適切な対応はどれか。

ア．全員で直ちに掘削底へ飛び込む。
イ．倒れた作業員が見えるので地山変状は無視する。
ウ．救急要請をせず現場だけで長時間対応する。
エ．救助者の安全を確保し、危険区域への無計画な進入を避け、必要な救助体制を整えて救援する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 二次崩壊で救助者も被災する可能性がある。
イ：× 救助時も現場安全を評価する必要がある。
ウ：× 必要に応じ専門救助・医療へ早期連絡する。
エ：○ 救助を急ぐあまり危険区域へ複数人が入ると、二次災害で被害が拡大するおそれがある。

総合解説：緊急救助では、被災者救命と救助者の安全を同時に確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0145

労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

現場の仮設電気設備付近で出火した。最も適切な初動はどれか。

ア．人を安全な場所へ退避させ、通報し、安全に実施できる範囲で電源遮断や初期消火を行う。
イ．通電した設備へ無条件に水を掛ける。
ウ．煙が多い場所へ単独で入り原因を探す。
エ．工事を止めず一部の作業員だけで隠れて対応する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 火災時は人命安全を確保しつつ、感電や延焼等の二次危険を避けて対応する。
イ：× 感電等の危険がある。
ウ：× 有害煙・火災拡大の危険がある。
エ：× 適切な退避・通報が必要である。

総合解説：非常時対応は災害種別に応じた手順を準備し、誰が通報・避難誘導・初期対応を行うか決めておく。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0146

労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

比較的大きな地震後に現場作業を再開する場合、最も適切な対応はどれか。

ア．揺れが止まれば直ちに全作業を再開する。
イ．足場、土止め、仮設構造物、クレーン設置状態、地山等を点検し、安全確認後に再開する。
ウ．完成構造物だけ確認し仮設設備は見ない。
エ．点検結果を作業者へ共有しない。

答え・解説

正答：イ

ア：× 設備・地盤の変状確認が必要である。
イ：○ 地震で一見倒壊していなくても、緊結部の緩みや地山亀裂等が生じる可能性がある。
ウ：× 仮設設備の損傷も重大災害につながる。
エ：× 再開条件を関係者へ周知する必要がある。

総合解説：災害後の再開は、時間経過ではなく設備・地盤・周辺状況の安全確認を基準に判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0147

労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

河川工事中に上流域で豪雨が発生し、水位上昇が予測される。最も適切な対応はどれか。

ア．現場で水が膝まで来るまで作業を続ける。
イ．大型機械の搬出に時間がかかっても退避計画を作らない。
ウ．定めた退避基準に基づき早めに作業員と必要な機械を安全な場所へ退避させる。
エ．上流の降雨情報は現場水位に関係しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 退避が間に合わなくなる可能性がある。
イ：× 事前に退避順序・経路を決める必要がある。
ウ：○ 河川水位は急上昇することがあるため、危険が目前になるまで待たず予測情報で判断する。
エ：× 流域降雨は出水に影響する。

総合解説：自然災害対応では、現場だけでなく上流雨量・気象情報等を監視し、十分な退避時間を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0148

労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

事故発生後、救助と危険除去が完了した。原因調査に向けた対応として、最も適切なものはどれか。

ア．原因が分からないうちにすべての設備を元通りにして記録を消す。
イ．関係記録を廃棄して担当者の記憶だけで調査する。
ウ．同様作業を直ちに再開し、原因調査を後回しにする。
エ．安全確保を前提に現場状況、設備状態、作業記録等を保全し、必要な報告・調査へつなげる。

答え・解説

正答：エ

ア：× 重要な証拠を失う可能性がある。
イ：× 客観性が低下する。
ウ：× 再発防止策を確認してから再開を判断する。
エ：○ 事故原因の解明には、発生時の状況を示す客観的記録が重要である。

総合解説：事故対応は救命だけで終わらず、原因究明と再発防止へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0149

労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：応用

豪雨で現場が浸水し始め、同時に停電して排水ポンプと照明が停止した。最も適切な対応はどれか。

ア．作業員を安全に退避させ、感電・転落等の二次危険を管理し、非常電源や予備排水設備を安全に使用できる条件で復旧する。

イ．暗いまま作業員を掘削底へ戻してポンプを手作業で直す。

ウ．電気設備が濡れていても無確認で通電する。

エ．浸水が増えても工程優先で施工を続ける。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 浸水・停電・暗所が重なる複合災害では、設備復旧より先に人の安全と二次災害防止を確保する。

イ：× 感電・転落・浸水の複合リスクが高い。

ウ：× 感電・短絡の危険がある。

エ：× まず退避と安全確保が必要である。

総合解説：非常計画では、単一故障だけでなく電源・排水・照明等が同時に失われるケースも想定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0150

労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：応用

事故・災害後に工事を再開する条件として、最も適切なものはどれか。

ア．予定時刻になれば原因不明でも再開する。

イ．原因・影響範囲を確認し、必要な補修・是正・安全確認・関係者周知を行ったうえで再開する。

ウ．被災箇所だけ隠して通常作業へ戻る。

エ．再開条件を現場責任者一人の頭の中だけに置く。

答え・解説

正答：イ

ア：× 同種災害が再発する可能性がある。

イ：○ 時間が経過しただけでは安全が回復したとは限らず、原因に対する対策と設備状態の確認が必要である。

ウ：× 原因・影響の確認が必要である。

エ：× 関係者へ周知し共通認識にする。

総合解説：再開判断は、原因の除去・残留リスクの評価・設備点検・作業手順の更新まで確認して行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21